

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:67



2015 年 8 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

ヴェントウーノ Tokyo (JR 渋谷駅ハチ公口徒歩3分)
 渋谷センター街、Forever21 の B1 階にたたずむ、広々と開放感のあるスタイリッシュなイタリアン&バー!!

コースはお一人様2500円～合コン、パーティー、同窓会、個室もあります。



- 住** 渋谷区宇田川町24番1号B1F
交 JR 渋谷駅 (ハチ公口)・地下鉄半蔵門線渋谷駅徒歩約 3 分
営 月～木 11:30～23:30 金・土 11:30～24:00
 日・祝 11:30～23:00
休 年中無休

☎03-3477-1199

目 次

- J B A国際資格停止処分 正式に制裁解除・・・・・・・・・・・・・・ 2
F I B A理事会が決定
- 全国シニア交歓大会 in YOYOGI (第8回)・・・・・・・・・・普及部・・・・ 9
- 女子日本代表・初のオリンピック出場・・・・・・・・・・歴史部・・・・ 27
1976 モントリオール・オリンピック
- 中体連初心者向けクリニック開催・・・・・・・・・・総務部・普及部・・・・ 34
- 人物抄 並木 浩さん・・・・・・・・・・・・・・ 38
- 会員だより
バスケットボール湘南だより (その11)・・・・・・・・中瀬達雄・・・・ 40
38年間の高校教員生活を終えて (その4)・・・・須田武志・・・・ 42
早稲田大学戸山キャンパス記念会堂・・・・・・・・坂本 博・・・・ 45
- 第34回 全国ママさん交歓大会 結果・・・・・・・・・・・・・・ 47
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・ 49

J B A 国際資格停止処分 正式に制裁解除

F I B A 理事会が決定

[編集部]

昨年末から J B A に課されていた全ての国際大会出場禁止の制裁は、8 月 9 日に東京で開催された F I B A セントラルボード（理事会）で正式に全面解除された。

これによって日本は、ブラジル・リオデジャネイロオリンピックの予選となる男女アジア選手権大会を始めとして、全ての国際大会に出場できるようになった。

F I B A セントラルボードは、J B A の国際資格停止処分制裁解除について、以下の 3 点を決議するとともに別添のようにプレスリリースした。

1. J B A の資格停止処分を直ちに解除する。
2. セントラルボードは、J B A と J P B L 間の契約締結、および新たなリーグの安定した財政基盤を構築できるマーケティング戦略の導入を推奨する。
3. 今後 2 年間、F I B A は J B A が実施する前向きな活動を継続的に支援し、進捗を監督し、必要に応じて助言を行っていく。

F I B A が日本バスケットボール協会の復帰を承認

F I B A セントラルボードは、JAPAN 2024 TASKFORCE チェアマンおよび J B A 新会長である川淵三郎氏により提出された報告書を受理し、川淵氏のこれまでのご尽力に対し感謝の意が表された。

6 ヶ月という短期間において、日本バスケットボール協会（以下 J B A）およびジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（以下 J P B L）の組織が完全に改善され、新しい体制が確立された。

J P B L は 2016 年に開幕し、J B A は代表チームが 2024 年オリンピックに自力出場し、8 年後にはメダルを争えるチームになることを目指す。

セントラルボードは、J B A と J P B L 間の契約締結および新たなリーグの安定した財政基盤を構築できるマーケティング戦略の導入を推奨した。

今後 2 年間、F I B A は J B A が実施する前向きな活動を継続的に支援し、進捗を監督し、必要に応じて助言を行っていく。

オラシオ・ムラトーレ F I B A 会長のコメント

「我々は中国で開催される 2019 F I B A バスケットボールワールドカップに日本が出場し、2020 年東京オリンピックのバスケットボールトーナメントで成功を収めることを願っています。F I B A セントラルボードを代表し、川淵氏の JAPAN 2024 TASKFORCE への献身および強力なリーダーシップに感謝申し上げます。

また、文部科学省、日本オリンピック委員会、日本体育協会そして最後にトップクラブから草の根まで、全レベルの日本バスケットボールファミリーの皆様にも感謝申し上げます。」

今回のF I B A決定について、川淵会長は次のようにコメントした。

本日、当協会に対する処分が正式に解除されました。6月の段階で部分解除を得ており楽観はしていましたが、それでも安堵したというのが本音です。これもひとえに、各方面の皆さまがJ B A、そして日本のバスケットボール界の改革をご理解下さり、また前向きなご支援、ご協力をいただいた結果と、深く感謝する次第です。

とはいえ、本日の処分解除はゴールではなく、真の改革へのスタートです。私たちはこの約8ヶ月間の出来事を決して忘れてはなりません。新たなステージに立ったいま、今度は日本のバスケットボールファミリーが自らの手で、日本のバスケットボールを大きく発展させていく番です。一丸となって取り組んでいきましょう。

いまは、近くオリンピック予選に臨む男女日本代表チームの活躍と、出場権獲得を心から願うばかりです。皆さま方には、世界の大舞台を目指して戦う日本代表チームへのご声援をお願いいたしますとともに、当協会に対しより一層のご理解とご支援を賜りますよう、引き続きよろしくお願いいたします。

以上のように川淵会長を中心とする昨年12月F I B Aの指示によって発足したJAPAN 2024 TASKFORCEの精力的な作業によって、僅か半年という短期間にJ B Aの根本的改革や長年にわたって続いてきた男子2リーグ併存が解消されることになったことは喜ばしい限りである。

しかしながら、各種国内大会や国際大会の実施、代表チーム強化をはじめとする日本バスケットボール界の強化発展はこれからの課題として残っている。

日本のバスケットボールファミリーが一致団結してこれらの課題に前向きに取り組み、J B A全体の真の改革を実践していかなければ、再びF I B Aから注文をつけられることになってしまう懸念がある。

以下にF I B A理事会が制裁解除を決議するにいたった経緯について概要を報告する。

去る6月18日～19日にスイスで開催されたF I B Aエグゼクティブコミッティー（執行委員会）へ川淵会長自らが報告書を携えて出向き、それまでの中間報告を行った。その内容は、JAPAN 2024 TASKFORCEにより、国内男子2リーグ併存問題が解消される見込みとなったことやJ B A改革の方向性が見えてきたことについてである。

そして川淵会長がJ B Aに課されてきた国際大会出場禁止の制裁を解除して欲しい旨の要請を行った結果、F I B Aは、8月に開催する理事会にこのことを図る旨を決定し、J B Aに対して国際大会へ出場する準備を始めるよう促した。

国内トップリーグ統一問題

JAPAN 2024 TASKFORCEは、2016年度から始めるJ P B L（トップリーグ）へ参加申し込みをした47チームを審査していたが、和歌山トライアンズは現状でチームが実質的に存在しない状態であること、広島ライトニングは県協会からの支援が得られなかったこと、から入会を保留し、J P B Lは45チームによって構成されることが決まった。

またJ P B Lは、参加を申し込んだクラブのうち企業チームの形態のまま参戦しプロ化

を希望しないクラブや、トップリーグに所属するプロクラブに相応しい活動を行うための財務内容や運営体制を整備していないクラブが複数存在することから、2016年スタートの際には1部・2部をプロクラブとし、それ以外の3部クラブについては別法人で運営することとしている。

そして将来的には、ピラミッド形の1部・2部・3部を構成し、現在の実業団リーグ（選手権）やクラブ選手権等は統合してアマチュアの総合社会人リーグを創設し、3部のクラブとの昇降格を可能とする案をJBAが検討していく。

JPBLは、7月30日、新リーグへ参加申し込みを行ったチームについて、第1回目の選考結果を発表した。

チーム選考の基準は下記の通り1部、2部、3部となっているが、未確定のチームがまだ25クラブあり、各部ともチーム数が増える可能性がある。

〔1部〕「ホームアリーナの入場可能数5,000人」、「年間試合数の8割のホームゲームを実施できるホームアリーナの確保」、「年間売上2.5億円」という条件を中心に総合的に判断。

〔2部〕「ホームアリーナの入場可能数3,000人」、「年間試合数の原則8割のホームゲームを実施できるホームアリーナの確保」、「年間売上1億円」という条件を中心に総合的に判断。

〔3部〕1部、2部に入らないクラブなど、アマチュアのチームも含む。

〔1部リーグ所属確定チーム〕 12クラブ 〔2部リーグ所属確定チーム〕 6クラブ

秋田ノーザンハピネッツ	青森ワッツ
仙台89ers	福島ファイヤーボンズ
リンク栃木ブレックス	豊田通商ファイティング
千葉ジェッツ	イーグルス名古屋
トヨタ自動車アルパルク東京	パンピシヤス奈良
東芝ブレイブサンダース神奈川	高松ファイブアローズ
浜松・東三河フェニックス	〔3部リーグ所属確定チーム〕 3クラブ
アイシンシーホース三河	
三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋	大塚商会アルファーズ
京都ハンナリーズ	豊田合成スコーピオンズ
大阪エベッサ	アイシン・エイ・ダブリュアレイオンズ安城
琉球ゴールデンキングス	

〔未確定チーム〕 1部 or 2部 15クラブ 2部 or 3部 10クラブ

未確定チームについては、財務状況やホームアリーナ確保の精査を経て、8月29日に発表される予定。こうしてFIBAから最も重要な事柄として指摘されていた国内男子の2リーグ併存は2015年度シーズンで終了し、2016年度から新しいトップリーグが発足する。

JBAガバナンス不足問題

JBAのガバナンス問題は、前号でお知らせしたように5月に発足した新しい評議員会において定款変更と新理事の選任が行われた。これにより新理事会が発足し、JBAの基

本規程や評議員選定委員会運営規則の改訂も行われ、新事務総長が選出されて、JBAは新体制での業務を開始した。

評議員の選定についての改訂では、評議員の推薦範囲を次の通り改訂した。

1. 都道府県協会から（47名）
2. JPBLから（19名）
3. WJBLから（5名）
4. 理事会から（1名以上6名以内）

また、都道府県協会は全て法人であることを要する旨も基本規程に盛り込まれた。

日本の競技力向上問題

日本の競技力向上については、以下の項目について議論を重ね「JBA強化に関する最終提案」として発表された。

15歳以下でのゾーンディフェンス禁止

JBAの過去（現状）	解決策
・12歳以下のチームの90%以上がゾーンディフェンスのみでプレーしている。 ・中学校の約70%がゾーンディフェンスを中心としている。 その結果により ・1対1の基礎的トレーニング及びマンツーマンディフェンスの経験不足により、1対1の技術レベルが低い。 ・日本国内の全てのレベルにおいてディフェンス力が低下している。 ・創造力不足——1対1の経験がない。	中学校及びミニでのゾーンディフェンスを違反とする ・ミニ（U12）及び中学校（U15）でのゾーンディフェンス禁止の新ルール作成。 ・新ルールは地方大会を含む全ての大会で適用。 ・ローカルルールの採用は認められない。 ・高校以上でのゾーンディフェンスは承認。 ・ミニは2015年6月以降に適用。 ・中学は2016年4月以降に適用。 ・マンツーマンディフェンスのルールブック策定。 ・ルール解釈のためのDVD作成。 ・ルール違反の罰則の策定と運用。

16歳以下の選手に対する支援

JBAの過去（現状）	解決策
・高校1年生（16歳）は試合でプレータイムを殆ど又は全く得られない。プレータイムは3年生及び2年生が占めている。 ・高校1年目の重要な時期に技術向上が停滞している。 ・U16日本代表選手でも自校の試合ではあまりプレータイムを得ていない。	高校1年生の大会・試合を増加する ・プロチーム及び地域協会と協力し高校1年生のためのリーグを設立する。 ・2016年スタート。

アスレチック・トレーニングプログラム

J B A の過去（現状）	解決策
- 日本の選手は耐久力及びスピードという面では強いが、強靱な身体及び跳躍力に関してはもっと高めなければならない。 - 身長不足の選手に関しては身体的な強さでサイズ不足を乗り越えなければならない。しかし、ライバル国よりも身体的に弱いのが実情である。 - J B A の強化プログラムにおいて、ウェイト及び跳躍力強化のトレーニングは重要な役割を果たしていない。	年齢に応じたトレーニングプログラムの開発 - 年齢に応じたトレーニングプログラムの開発。（U 1 0、U 1 2、U 1 4、U 1 6、U 1 8） - パワー及び跳躍系のトレーニングの強調。 - コーチ育成での運動トレーニングの強調。（パワー及び跳躍に重点を置く）

コーチ教育（育成）

J B A の過去（現状）	解決策
- 他国に比べコーチのレベルが低い。 - 日本人のコーチは他国のトップリーグや優れた他国の代表チームを率いたことがないことが、コーチ教育の弱さの証である。 - 日本では長年にわたり、厳密なコーチライセンス制度が存在していなかった。 3年前にコーチライセンス制度（コーチがライセンスを保有することの義務化）に移行し進んでいるが、現行の育成システムでトップレベルのコーチを輩出するまでには相当な時間を要する。	日本代表プログラム（強化）の傘下にエリートコーチ教育課程を設立する - 若く才能あるコーチを発掘。 - 将来の代表チームコーチ及び／又はトップリーグのヘッドコーチを見据え、若い日本のコーチを教育する特別な教育課程（スケジュール及びカリキュラム）を策定。 - F I B A のコーチ教育基準に沿う。 - 全ての対象コーチを代表合宿及びエリートアカデミーに招待し更なる教育を図る。 - 教育の一環としてヨーロッパ、オーストラリア及び／又はアメリカでの海外研修を行う。

審判教育

J B A の過去（現状）	解決策
- 日本での判定基準は国際基準と異なる。 - 審判の判定基準が異なることにより、代表選手が国際レベルでプレーする際に大きな困難に直面している。 - 国際大会において、日本人選手はよりフィジカルな試合への対応で大きな問題を抱えている。 - 二つの異なる審判委員会が存在している。	審判教育を国際基準に順応させる - 徹底的に審判教育及び審判のパフォーマンス分析を行う。 - 高いレベルの教育基準に改善する。 - 国際トップレベルの審判を招聘し、クリニックの開催及び助言を得る。 - ヨーロッパの研修ツアーを推奨。 - どのようにすればトップの審判が十分に

	稼ぐことができ、プロ審判に転向することができるのか模索すべき。この過程においてはトップリーグも関わるようにする。 ・一つの審判委員会を構成すること。
--	---

タレント発掘

J B Aの過去（現状）	解決策
・タレント発掘は、学校又はコーチ個人の利害関係並びに大学界の影響が非常に大きい。 ・(大学界との) 強力なネットワークを有する学校及びコーチの下でプレーする選手が代表チームに選出される可能性が非常に高い。 ・国際的な観点で劣っている選手（技術は高いが低身長）が優れている選手（長身であるが技術は劣る）より多く選出されている。 ・間違っただ目標と短期的な成功を求める？ ・有望なトップ選手を評価するための知識及び経験がスカウトに欠如している。	公平かつ優れたタレント発掘のためにも中立なスカウトを任命し育成する ・9ブロック及びブロックオールスターチームから選手を発掘するために既存のシステム（エンデバー）を活用する。 ・各ブロックの各カテゴリー（U 1 3、U 1 5、U 1 7）に1名中立なスカウトを任命する。 ・ブロックオールスターチームを形成し、ブロックオールスタートーナメントを1回開催する。（アンダーカテゴリー代表チームの主な発掘事業とする） ・スカウトを教育し、どのような選手を探すべきか理解させる。

代表活動（選手派遣）

J B Aの過去（現状）	解決策
・指導者、学校又は地域協会との利害関係により選手が代表合宿や大会に参加しないことがあった。 ・存在する規程で、選手は代表チームの活動に参加する義務はあるが、明確な罰則がないため違反が生じている。そのため大きな罰則等もなく規程違反があった。	代表活動に参加しなかった場合の罰則を明確にする ・全カテゴリーの日本代表チームの選手は全ての代表活動に参加する義務を負う。（全ての合宿を含む） ・地域協会の大会と日程が重複する場合があるが、その場合でも代表活動が最優先である。 ・罰則：代表活動に選手が参加しなかった場合は当該選手（所属チームの試合を含め）を半年間の試合出場停止処分を科す。 ・アンダーカテゴリーの選手の例外：入学試験、他の機会に振り替えることができない試験。（通常の学校行事は認めない）

代表活動（女子）

J B A の過去（現状）	解決策
・海外でプレーした選手などを含め、シーズン中に他のチームへの移籍又は加入が認められていない。 ・W J B L に外国籍選手がいない。 ・W J B L の競技力はそれほど高くなく、大きな戦力差が存在している。 ・若手選手（19歳～20歳）はチームに加入しているが、プレータイムはあまり得られない。	W J B L の登録規程及び外国籍選手の承認・もっと柔軟な登録規程の策定 ・W J B L のチームは外国籍選手を1名出場させることが可能。（オンザコート1） ・選手はシーズン中に移籍することが可能（選手契約上認められる場合のみ）とし、シーズン中でも（1月末まで）加入することが認められる。 ・ベンチ登録12名。（最大20名／シーズン） ・20歳以下のトップ選手は「強化チーム」を形成し、2017年皇后杯（オールジャパン）に出場する。更に2017年1月から3月の期間にて海外のチームと親善試合を行う。 ※オールジャパンの出場枠はインターハイ優勝チーム枠を想定しているため要調整。

代表活動（男子）

J B A の過去（現状）	解決策
・男子代表チームの強化期間が少なく、国際大会に向け万全の準備をするさいに困難に直面している。 ・代表選手は、国際トップレベルのチームとの対戦経験が欠如している。 アンダーカテゴリー ・二つの異なるユース育成システムが存在している。（代表活動とエンデバー） 両システム間の関連性が薄いため、時間と財源が無駄になることもある。	ホーム&アウェイの予選期間内に強化活動を増やす ・男子代表の活動期間を増やすために。新たなF I B A 予選方式（2017年から始まるホーム&アウェイ方式）を活用する。 ・活動目標は50日／年。 ・1年前倒し（2016年）で強化プログラムを始動する。 ・追加事項として、海外又は日本国内において国際試合8～10試合を調整。 ・エンデバーと代表を統合し、財源を同じ強化プログラムに有効活用する。

川淵会長を中心とした JAPAN 2024 TASKFORCE の尽力によって国際資格停止という問題はひとまず解決したが、これから今回の改革を充実させ日本のバスケットボール界発展を現実化していくことは日本のバスケットボールファミリー全体の課題でもある。

過去、マスコミから「日本のスポーツ界で一番もめごとの多い団体」とレッテルされたこともあるバスケットボール界を、そのファミリーが一致団結してしっかりと改革していく覚悟を持たなければならない。

全国シニア交歓大会 in YOYOGI (第8回)

[普及部]

今回で8回目を迎えた「全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI」は、6月26日(金)～27日(土)の2日間にわたって代々木第二体育館で開催された。

参加チームは男子9チーム女子4チームで、総参加者数は200名を超えた。今回は岩手、大阪の男子チームが新たに参加し、白熱した試合を展開、特別に設けられた70歳以上の部でも、単独で出場したチームが2チームあり、高齢でバスケットボールを生涯スポーツとして楽しむ姿が印象的だった。

今回は昨年までの反省を踏まえ、試合時間を、男子10分クォーター、女子8分クォーター、70歳以上6分クォーターとして、それぞれのバスケットを十二分に味わっていた。

主催した振興会では、今回から大会要項を一部変更し、各チームの中に振興会会員が3名以上在籍することを参加条件としたが、各チームともその条件をクリアしての出場となり、振興会会員の増加にも一役買った形となった。しかしながら財政的に赤字とならないよう、プログラムからポスター、懇親会参加証など全てが振興会スタッフの手作りとなり、華々しい代々木のオンザコートの中には役員各位の大変な苦労もあった。

第1日目の試合終了後に渋谷駅近くで開催された合同懇親会には、100名以上のシニアが出席して盛り上がり、参加者同士の楽しい交流が深まって意義のある大会を終えた。

試合の結果

6月26日(金) 男子

チーム名	スコア	チーム名	備考
千葉 Coki Coki	●26-51○	東京駄馬	
STARS OF STARS	○37-29●	岩手マスターズ	
埼玉 Trotters	●16-56○	大阪 YOYO	
SOS プラチナ	○25-20●	シルバーキッズ 70	70 歳以上
横浜ビー・シーガールズ	●21-28○	シルバーキッズ	

6月26日(金) 女子

チーム名	スコア	チーム名
シルバーキッズレディース	●23-37○	千葉
入間テンダース	○30-24●	千葉

6月27日(土) 男子

チーム名	スコア	チーム名	備考
埼玉 Trotters	●48-58○	シルバーキッズ	
千葉 Coki Coki	●27-43○	岩手マスターズ	
70 歳 ALL	○25-17●	シルバーキッズ 70	70 歳以上
STARS OF STARS	○31-28●	大阪 YOYO	

横浜ビー・シーガールズ	●37－41○	セブンブラザーズ	
70 歳 ALL	●14－20○	SOS プラチナ	70 歳以上
東京駄馬	●12－40○	セブンブラザーズ	

6 月 2 7 日（土） 女子

チーム名	スコア	チーム名
長野クラブシニア	○45－14●	シルバーキッズレディース
長野クラブシニア	●24－31○	入間テンダース

<<男子参加チームからの感想>>

STARS OF STARS

会員	氏 名	年齢
	江 川 義 孝	72
	奥 田 晃 紀	72
	前 島 康 禮	72
○	鈴 木 進 吾	72
	篠 原 正 邦	72
○	諸 山 文 彦	72
	鹿子木 雅	72
	小 玉 晃	72
	窪 田 博 仁	71
	柳 沢 研 二	65
	松 下 成 裕	67
	川 内 孝	62
	渡 辺 徹	63
○	高 倉 潤一郎	65
	奥 山 幹 雄	60
	三 浦 眞 造	67
	篠 辺 和 宏	60
	室 恵 雄	67
	海老沼 郁 夫	60
	小 林 辰 彦	64



STARS OF STARS 鈴木 進吾

全国シニア交歓大会では勝利より大事なものがあると思います。この大会が開かれた6月にI O Cは、ローザンヌで2020東京オリンピックのセーリング会場を前回の東京オリンピックで使用した江の島のヨットハーバーと決定しました。この決定を聞き思い出すことがあります。入賞のチャンスが残っているにも関わらずスウェーデン艇は転覆したオーストラリア艇を100メートルも戻り救出しました。レース後スウェーデン艇のキエル兄弟は「海で遭難事故を見つけたら、何を置いても救助に向かうのは海の男として当たり前のこと」と笑顔で語っていました。

全国シニア交歓大会 in YOYOGI は、女子50歳以上、男子60歳以上と70歳以上が参加できるという大会であることはご案内のとおりです。結論から申し上げますと、それは「怪我をしないこと、怪我をさせないこと」に尽きると思います。

中学生や高校生が1日で治る程度の怪我でも高齢者は治るのに10日かかり、大学生が1ヶ月で治る怪我は高齢者の場合1年位かかり、生涯バスケットボールが出来なくなるかも

しれません。大部分のプレーヤーは自分が怪我をしないように、気を付けていたと思いますが、残念なことに相手の怪我には無頓着なプレーヤーが見受けられました。もちろん、真剣に勝とうとするチームとチームのぶつかり合いがバスケットボールの醍醐味ではありますが、高齢者のバスケットボールでは「長く続けられるように互いに努力すること」を忘れては大会が成り立たないでしょう。

海の男が遭難を見つけたら救助に向かうように、われらボーラーは勝利を目指しても、「怪我をしない、怪我をさせない」というモットーを持って来年のこの大会で再会しようではありませんか。

素晴らしいこの大会、大好きなバスケットボールを大切にしましょう！

STARS OF STARS 篠辺 和宏

何年ぶり、いや何十年ぶりの代々木第二体育館に、言うに云われぬ興奮を覚えた。原宿方面から石畳の通路を一步一步踏みしめるように歩いて行くと、独創的な屋根が目飛び込んできた。

バスケットボールを愛し楽しむ人々の聖地、「代々木第二体育館」は今もその雄姿を残していた。正面玄関に着くと聞こえてくる、ボールと床の奏でるハーモニーは、これから始まる楽しいひと時の正に前奏である。

60歳でこの聖地でプレーすることを、若かりし頃の自分は決して想像すらできなかったに違いない。ユニフォームに着替えバッシュの紐を固く結ぶと、戦士の心に切り替わる自分がまだいることに驚かされる。

独創的な大空間は、何とも言えぬ緊張感と「聖地に来た」という満足感を味あわせてくれる。その同じ空間には、高校の時に一戦を交えた友や大学の時に切磋琢磨した仲間がいた。何のいたずらなのか、その昔の仲間が作ったチームと戦うことになった。

お互い動かなくなった身体を奮起し、昔と同じようなプレーが見られたことに懐かしさを感じた。

一進一退の攻防が続き、随所に熱いプレーも飛び出し、終了のブザーが鳴った。3点差で我がチームが勝利したが、勝った喜び以上にこの歳で昔の仲間とバスケットができた喜びの方が遥かに大きかった。

熱い戦いは諸先輩方の試合でも随所に見られた。我々（60歳）より一回り以上の先輩方が、我々以上にコートを走りリングに向かう姿勢は、驚きと尊敬以外の何ものでもない。

この大会を通じて、バスケットの楽しさ、継続する大切さ、そして健康であることの喜びを改めて痛感した。

これからも諸先輩方を見習い、一日でも長くバスケットを楽しめるよう、心がけていきたい。来年も皆さんとお会いできることを楽しみにしています。有難うございました。

STARS OF STARS 海老沼 郁夫

私、シニアとして今シーズンより STARS OF STARS に参加させていただき、シニアデビューゲームが何と！今回の「全国シニアバスケットボール交歓大会」となりました。残念ながら職務の関係で2日目の6月27日にチームに合流させていただきました。

今大会を迎えるにあたって、我が家ではいろいろな意見（ダメだし）が大会当日まで続き、本当にバスケットボールができるの？チームにご迷惑をかけるのでは？心配だから見に行こうか？などと色々言われ、私も自信がないため反論もできず、恥ずか

しいところは見せられないと思い、見学（応援）は断りました。こんな日々を過ごしながら30年ぶりの代々木での大会当日を非常に緊張した形で迎えました。

千代田線明治神宮前で下車し、代々木第一体育館から石畳を歩くコースは30年前と全く同じで、タイムスリップしたような感じで第二体育館に入りました。体育館に入った瞬間さらに緊張感に包まれ、またそれが心地よくも感じました。

前日の26日はゴールドチーム、大先輩のプラチナチームともにそれぞれ勝ち星を挙げ、ナイスゲームだったことを聞き、更に今日の対戦相手が大阪のチームで私と同年代のメンバーを擁した強豪チームであることの情報が入り、昨日と同じ展開ができるように祈る思いと、私自身出場した際の不安とが入り乱れて、このような状態で精神的にも肉体的にも不安定な状態でゲームに臨みました。

ゲームは序盤から一進一退の攻防となり、ゲーム中相手のラフプレーもあって熱くなって接戦を制し勝を収めました。先輩方のはつらつとしたプレーに感動しました。

私はと申しますと、残念ながらゲームに出場させていただきながら、勝利に貢献できず課題の残る（課題だらけ）プレーをしてしまい、反省するとともに家族の応援がなかったことに胸を撫で下ろしました。

続く大先輩のプラチナチームも華麗なプレーの続出で接戦を制して勝利し、前日に続きアベック勝利となりました。勝利の喜びもさることながら、多くの諸先輩方が築き上げてきたこの大会に出場させていただき、諸先輩方の往年のプレーを拝見することもできて、感動するとともに楽しい時間をいただいたことに感謝申し上げます。

私自身これからもこの大会に出場させていただけるよう、また諸先輩が築いたものを引き継いでいけるよう頑張っていきたいと思った大会でありました。

STARS OF STARS 奥山 幹夫

私は昭和30年6月生まれで今年60歳になり、第8回大会に初出場させていただきました。バスケットボールは渋谷区立上原中学時代から始め、高校、大学、会社（実業団）と現役選手を続け、会社の選手引退後は、コーチ、監督、部長、幹事長とスタッフを継続していました。

その後、54歳で後輩に指導者の役割をバトンタッチしてからはバスケットのプレーをすることはなくなり、スポーツはゴルフ、ダイビングをするくらいで、走る・跳ぶような運動とは全く無縁な状態でした。

そんな58歳を過ぎたころのある日、会社や大学のバスケットの先輩から「STARS OF STARS というバスケットが好きな大先輩の方々が、一生懸命練習をして試合に出場しているので、是非一緒にプレーをやろう！」とお誘いをいただきました。

そして初めて練習に参加した時はとにかくビックリでした。70歳を超える大先輩が、走る・跳ぶ・シュート・リバウンドを真剣にプレーしているではありませんか。

当方は、最初は情けないほどランニングシュートは落とす、フリースローはリングに届かない、リバウンドはボールに触れない・・・全くバスケットができませんでした。その後怪我をしないように練習に参加した結果、約1年と半年が過ぎた現在は、「少しは現役時代のプレーに近づいたかな・・・」の感じです。

今回の大会に初出場させていただきましたが、各チームの皆さんの素晴らしいプレーにはビックリでした。また、中学から会社時代に何度も試合をした、懐かしの代々木第二体育館でプレーできたことは、とても嬉しく楽しい時間でした。

今後も怪我をしないように練習を継続して、第9回大会にも参加できるよう頑張りたいと思います。

大会事務局や各チームの皆さんには大変お世話になりました。今後ともよろしく願います。

千葉 Coki Coki

会員	氏 名	年齢
	志 賀 政 司	74
	鈴 木 健 介	74
○	岡 田 忠 士	71
	大 澤 弘 次	70
○	渡 辺 時 男	70
	西 郷 隆 輝	69
○	渡 辺 直 幸	67
	加 藤 薫	66
	高 松 昭 二	66
	新 井 春 男	66
	山 本 富美夫	66
	谷 野 文 男	65
	島 田 三 郎	63
	鳥 居 隆	63
	鈴 木 修	62



千葉 Coki Coki 岡田 忠士

全国シニアバスケットボール交歓大会が、今年も6月26日～27日の2日間にわたり開催されました。

恒例の大会ゆえ男性チームが北は岩手県・岩手マスターズ、西は大阪府・YOYO、兵庫県・シルバーキッズと、関東から東京・3チーム、神奈川、埼玉、千葉から各々1チームの参加、女性が兵庫県・シルバーキッズレディース、長野県・長野クラブシニア、埼玉と千葉から各々1チームが馳せ参じ熱戦を繰り広げました。

年齢的には男性でシルバーキッズの日笠さん（88歳）、谷さん（82歳）、岩手マスターズの油井さん（80歳）、東京駄馬の山本さん（80歳）、女性でシルバーキッズレディースの大平さん（77歳）と大先輩の活躍があり、私も古希を過ぎましたが、まだまだ中堅として頑張らねばと痛感しました。

さて、日本のバスケットボール界もようやく来年10月にリーグの1本化が図られることになり、2020年東京オリンピックへ向けてスタートしました。ミニバスチームや我々ゴールデンシニアチームのような底辺も、ますます広がりを見せております。

東京オリンピックを目標に、若い世代のレベルアップと強化を、サッカー界のようにシステマチックにできますことを新生日本協会に期待します。

また毎回私たちに、バスケットのメッカである代々木第二体育館でプレーする機会を与えてくださる振興会の皆様に感謝申し上げます。

それでは来年も元気で再会できますよう、お互いに健康に気をつけて頑張っていきたいように。

東京駄馬

会員	氏 名	年齢
○	吉 田 俊 幸	62
○	橋 田 龍太郎	62
	大 沼 正 夫	60
	平 野 秀 昭	60
○	沖 宗 秀 樹	69
○	片 山 祥 司	60
	岩清水 芳 樹	60
	西 川 功 二	63
	水 野 俊 彦	67
	神 康 雄	64
	阿 部 哲 朗	60
	山 田 修 一	65
	望 月 慎 一	70
	大 埜 敦 彦	71
	市 川 信 行	60
	須 藤 亮 一	60
○	山 本 治	81



横浜ビー・シーガールズ

会員	氏 名	年齢
	田 中 辰 夫	63
	村 山 繁	72
	宮 次 保 明	64
○	條 武 志	70
○	瀬 下 秀 人	62
	朝 山 正之進	67
○	川 戸 政 角	64
	狩 野 治	68
○	山 上 久 夫	64
	中 島 健 司	63
	藤 田 哲 治	66
	柳 沢 保 雄	65
	熱 田 学	66
	畑 沢 章	60



横浜ビー・シーガールズ 熱田 学

わが横浜ビー・シーガールズは第1日目シルバーキッズ（兵庫）、第2日目セブンブラザーズ（七帝大）と対戦し一歩及ばずで負けました。

両試合とも応援席は殆どが相手チームの応援団でアウェイ状態でありました。初日の試合ではなかなか調子が出ず、一方的な試合の最中に大先輩のYさんが我々のプレーを見かねてベンチまで来られ、「応援席はみな兵庫だけど横浜の応援をするから頑張れ！」と熱い

エールをいただきましたが力及ばずでした。

2日目も同様、人脈が豊富な七帝大応援団の声援が殆どでありました。

まあ遠い兵庫から来ているし、エリート集団の七帝大チームなので、勝たなくてよかったかなと負け惜しみをしています。したがって次回までの課題は応援団の強化です。

学生、社会人時代にバスケットボールで活躍された方々には、代々木第二体育館が想い出の多い体育館であると思いますが、同好会的にバスケットボールをしていた私は憧れの体育館でもあり、そこで試合をやることが願望でした。

約50年前、今試合をさせていただいているスター選手を観たくてよく代々木第二体育館へ通いました。観客席は少し暗く照明に浮かび上がったコート、渦巻状の吊り天井、そのような中で選手は舞台上で演技をしているようにも感じました。試合後の余韻を感じながら最上部のスロープの通路を歩き出口まで行く。何とも言えない感じ・・・！

その代々木第二体育館で昨年、今年と横浜ビー・シーガルズの一員としてバスケットボールの試合ができたことは、念願がかない感動でした。今大会で代々木のコートに立てたことで私と同じ思いをされた方もいるかと思います。

私は神奈川県藤沢市の湘南ファイヤークラブ（1971年設立、HPあり）というチームをホームにバスケットボールを楽しんでいます。数年前にHPで部員募集をしていた金沢八景のチーム練習に参加後、横浜のチームに参加し63歳になった2012年の横浜カップから本格的にシニアの試合に参戦し、埼玉、東京のチームにも参加させていただくようになりました。

函館、越後湯沢、尾張一宮、松山、石垣島などで開催された大会にも参加するようになり、あっという間に素晴らしいバスケットボールの人たちと交流ができ、昨年はカリフォルニアのサンノゼで地元クラブチームと対戦、今年4月にはクロアチアの世界大会にも参加させていただき、色々な国の人とも国際交流ができました。このような大会に参加できたのも仕掛け人の横浜の川戸さんのお陰です。

下記に私のバスケットボール3年間のヒトTOPICSの一部をご紹介します。

1. 歳を聞かれて答えたら「まだ Baby だ！」と言われた・・・元気過ぎるWさん。いまだに子供扱いされます。
2. 週に4～5回はバスケットボールの練習をしているという71歳のAさん。シュートがよく入り走る。目標の鉄人です。
3. バスケットボールはあまり上手くない（失礼）。でもイベントでは凄い力を発揮するHさん。色々なところでお世話になっています。頭が下がります。
4. サングラスをかけ目立っていた人は、東京都中学校大会決勝の相手のKさんと知りました。一緒にチームで試合をするのがお互いの願いです。
5. 情報セキュリティの会場で憧れの大御所Mさんに偶然お会いしたのはビックリしました。などバスケットボールのお陰で他にも色々な人と出会い、そして良い話を聞かせていただいております。

バスケットボールをいつまでできるかわかりませんが、諸先輩方を見本に人生を楽しむための「ひとつのツール」として、前向きにいろいろな経験・交流ができればと思っております。

最後に大変楽しく有意義なこの大会を企画・運営していただきました振興会の方々と、大会に参加された方々に感謝申し上げます。 LOVE BASKETBALL!

埼玉トロッターズ

会員	氏 名	年齢
	田 中 義 郎	76
○	増 井 英 明	64
	謝 文 伝	66
○	荒 蒔 孝 次	71
	アラン 新 井	60
	佐 藤 規 雄	60
	諏訪部 栄 一	65
	宮 田 徹	60
	俵 木 登	61
	川 上 勉	64
	植 波 吾 一	61
	久 居 和 夫	61



埼玉トロッターズ 増井 英明

6月26日、27日に代々木第二体育館において、男子60歳以上、女子50歳以上の全国大会が開催され、我々埼玉チームも参加しました。

近年、男子60歳以上の全国大会は、八幡カップや横浜カップでも開催されていますが、この代々木第二体育館でプレーができるのは特別なことです。

バスケットプレーヤーであれば、誰でも知っており、いつかはこの「バスケットの聖地」でプレーしてみたいと思うのではないのでしょうか。

学生やクラブチームでプレーしていた私には、代々木第二体育館はトップリーグやインカレなどの試合を観るためだけのところでした。

それが、どうでしょう。長い間、バスケットをプレーしてきたことの褒美のように思われ、毎年、この素晴らしい体育館でプレーができる喜びを毎回、感じています。

さて、今回は男子が兵庫県のシルバーキッズの他8チーム、女子は長野クラブシニア他3チームの参加で各チームが2日間で2試合が行われ、特筆すべきは、70歳以上のチームも3チームが参加されて試合が行われました。

試合の感想ですが、男子60歳以上には我々埼玉チームや千葉、横浜、駄馬、SOS、岩手マスタースなどは前述の全国大会にも参加しており、もう、何年も対戦しているチームで、相手の実力などは互いに熟知していると思われ各チームの選手起用にそれが表れていたと感じました。

また、この大会にのみチームを編成して参加したセブンブラザーズやYOYOもそれぞれのバスケット人生での繋がりから、この代々木第二体育館に集まったと聞いています。残念ながら、今回は2試合とも負けてしまいました。特に今年は各チームに新戦力が多数みられ、昨年よりレベルアップされた大会だと感じました。今後、各チームから70歳以上のプレーヤーがどんどん増えていくように思われます。我々埼玉チームもその一員となり、生涯バスケットを楽しみたいと今回強く思いました。

26日試合終了後、渋谷駅前にて懇親会があり、対戦したチームの方や旧知のひとと楽しい時間を過ごせました。お酒が入ると皆さん様に学生時代や実業団、クラブチームでの若き日のプレーを本当に楽しく語り合っておられました。

最後になりますが、毎年、この「バスケットの聖地」である代々木で試合ができる幸せをプロデュースしていただいている日本バスケットボール振興会に感謝を申し上げます。

シルバーキッズ

会員	氏 名	年齢
○	山 本 嘉 宏	78
○	野 寄 正 一	76
	芦 田 友 紀	62
○	三 谷 千 尋	77
○	日 笠 敦	88
	浅 野 重 光	60
	伊 藤 宏	74
	野 村 治 夫	77
○	上 野 正 紀	72
○	磯 野 和 彦	70
	谷 紳 一	82
	天 摩 義 信	76
	藤 原 徹	65
	谷 野 章 二	65
	山 口 敬	65
	横 田 茂 治	66
	竹 厚 修	65
	渡 邊 操 六	76
	梅 谷 元 樹	65
	植 波 吾 一	61



シルバーキッズ 竹厚 修

まずは、本大会を今年も開催戴いた日本バスケットボール振興会の渡辺理事長を始め、役員の皆様スタッフの皆様心より感謝申し上げます。

今年も第 8 回全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI に無事参加でき、メッカの代々木第二体育館でプレーもでき、次の週の水曜日に神戸でまあまあ“まともに練習”できた（笑）ことを大変うれしく思います。本当にプレー以外でも懇親会等、いろいろとお世話になりありがとうございました。

小生にとっては SOS を始めとする往年の日本代表、花形プレーヤーの方々、及びハワイやクロアチアへと勝手に日本のシニア代表？を騙り（笑）一緒に遠征した「加齢（華麗？）なプレーしかできなくなった爺さん達&美魔女（笑）の皆様」と再会し交歓できることが毎回の楽しみでもあります。

小生は 61 歳の夏からバスケを再開し、62 歳の第 5 回大会から参加させて貰っておりますが、我が神戸 SILVERKIDS は今年創立 15 周年を迎え、本大会にも勿論第 1 回大会からの参加と聞いております。

SILVERKIDS の入部資格は「60 歳以上、バスケットが好きなこと」の二つの要件を満たしていれば良く、まさに創立 15 周年、平均年齢 74.5 歳（もっと上かも？）ということ鑑みても、日本の（あるいは世界の）シニアバスケットの草分け、始祖・元祖、お手本、と言っても過言ではないでしょう。（少し我田引水が過ぎるかも。。。ご容赦を。。。）

小生のような 65 歳の小僧はまだチームでは“駆け出し”にすぎません。

今年の SILVERKIDS は爺さんチームが 70 オーバー単独チーム&60 オーバー、そして SILVERKIDS Ladies が参加させてもらいました。爺さんチームは名古屋フリーダムから 70 歳チームに野寄選手&国分選手、60 歳チームに浅野選手の助っ人を加えた陣容立てであり、SILVERKIDS Ladies は、関東、名古屋、神戸地区より、SKL メンバー&助っ人の方々が多く参加し、正に「美魔女軍団」と呼ぶに相応しい？？陣容立てでありました。

特筆すべきは、今回参加チームの総ての男子選手、女子選手の中で最年長“プレーヤー”

が我々のチームメイトであったということです。

男子では 来年第 9 回大会は 90 歳でコートに立たれる日笠選手、女子では（お年は伏せますが多分最年長の）得点も決められた大平選手、まさに我々の目指すシニアバスケットのお手本になるお二人ではないでしょうか。

さて、チームの宣伝ばかりに走ってしまったような気も致しますので、こちら辺で本来のゲーム、プレーについて少し語ります。

SILVERKIDS は 60 歳代が 2 勝、70 歳代が 2 敗、SILVERKIDS Ladies が 2 敗、という戦績でした。（60 歳代が 2 勝したのは、助っ人浅野選手“最若手 60 歳”の大活躍によるものです。 ありがとう浅野さん！又、助っ人 頼のんます！）

本大会の 60 オーバーのゲームはメンバー表を見ても、試合を観ても各チーム若返りが進んでいるなあ～ と感じました。特に 60 歳になり満を持して本大会に参加された方が多いように思いました。

SILVERKIDS では 65 歳で若僧の小生も、60 歳の若手？（笑）についていくのがほんまにしんどい！と感じた大会でした。同時に 61 歳からバスケットを再開した、単なるバスケット好きの草の根プレーヤーである小生が言うのは面映いですが、後進が“シニアバスケット界”を盛り上げてくれているといううれしさも感じました。

一方、若さ(笑)故なのか、血気盛んなプレー（ハッスルプレー？）も多く、多少荒れた試合が多かったなあ～ と感じたのは小生だけでしょうか？それが原因ではないのですが、我がチームでも二人の選手が負傷したのは残念な出来事でした。

（二人は怪我の後でも元気にプレーを続け、“流石”と感服した部分はありませんが。）

それに引き換え 70 オーバーのゲームは“勝利する”という命題の中にも“バスケットを互いに楽しむ”という阿吽の呼吸が双方にあり、観客をも楽しませるものであったと思います。その中でも、「あの人は一体何歳なの？」という文字通り“華麗なプレー”や“パワフルプレー”が随所にあり、小生を含めた観客も充分楽しませて貰いました。

もちろん、ハッスルプレーもあり、体がいうことを利かないための“加齢なファール”がありましたが、概ね皆が笑顔になれるものでした。（先輩たちはやはり凄い！！）

さて、もともと「全国シニアバスケットボール交歓大会」に優勝とかいう概念はなく、あくまで交歓が主体の大会であると聞いております。

60 オーバーのゲームでも、選手の皆さんは本大会の趣旨である「バスケット好きの爺さん達の交歓会」を第一義と考えては如何でしょう。もっともアスリートである限りは例え紅白試合でも勝ちに拘るのは仕方のない（小生自身も“勝ち拘り派”です(笑)）こととは思いますが、優勝をかけての大会は別にもありますし、お互いに還暦を過ぎたバスケット好きの爺さん達がやっているゲームですから。

今年 60 オーバーのゲームに参加した若い(笑)？プレーヤーにお願いがあります。ハッスルプレーは互いの切磋琢磨の為 大いに歓迎すべきことと思いますが、コート上での“押し合い圧し合いぶつかり合い”をもう少し“爺さん”向けにコントロールして頂ければ助かります。

小生は来年も元気でシニアバスケットのお手本である SILVERKIDS の諸先輩とともに、第 9 回大会に参加することを今から楽しみにしております。又、皆さんとのコート内外での交歓も大いに楽しみにしております。

今年もありがとうございました。 See you next time!!

セブンブラザーズ

会員	氏 名	年齢
○	山 見 博 康	70
	若 山 秀 夫	67
○	蒲 田 尚 史	67
○	佐々木 政 治	65
	桂 木 明 夫	62
	木 村 光 彦	64
	西 川 和 人	67
	西 島 修	64
○	池 本 祐一郎	63
	中 澤 進	66
	荒 井 親 平	61
	山 内 豊	67
○	西 川 博 之	61
	田 宮 秩	60
	泉 紳一郎	60



セブンブラザーズ 蒲田 尚史

北は北海道から南は九州までの国立七大学のバスケット好きOBが集まり、赤と白のリバーシブルユニフォーム（seven brothers）まで作り、昨年から参加しています。昨年のエントリーは4大学・8名(平均年齢65才)

と苦しい思いをしながら、なんとか1勝1敗。今年は7大学・15名(平均年齢64才)、全員出場で戦績は2勝、懇親会では応援団も交えビール・ワインを痛飲、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。まずは日程面でご無理をお聞き頂き、運営面でお世話頂いた日本バスケットボール振興会事務局の皆様には心より感謝申し上げます。

試合に臨み、ケガをしないこと、ディフェンスのリバウンドを全員で頑張り、オフェンスではリズムがよければ外角からどんどんシュートを試みることに、更には応援団も来ているので往年のコンビネーションプレーも見て貰おうとかなり欲張った目標を掲げ、全員で確認。その結果、概ね納得のいくプレーができました。疲れが出てきて、これで精一杯と感じた頃に試合終了のブザーを聴くことが出来たのもラッキーでした。今回、帯同審判をお願いした福島さん（協会公認審判）がこの大会を機に仲間に入ってくれることにもなりました。TOに関しては、まだまだ勉強することが多く、これからの課題だと思っています。近い将来、できれば、プラチナチームでの出場にもトライできればと考えております。

最後にプレーしたメンバーのコメントを記させていただきます。

- ・夢の代々木第二で試合できるとは想像もしていませんでした。誰もケガがなく試合に勝ち、個人的にも得点を挙げ、これ以上はない時でした。
- ・楽しさの中にも適度の緊張感があり、チームとしての一体感も感じる事ができました。
- ・バスケットは久しぶり、昨年心臓の手術をしたこともあり、念のため事前に医者にご相談したところ「大丈夫。来年以降もペースメーカーがぶつかって壊れない程度にやって頂いて結構」といわれ、安心してプレーできました。
- ・久々の代々木第二のコートと現代のルールでの公式戦を堪能しました。
- ・年の割には若いと言われ、その気になっていましたが、皆さんの動きの良さにただただ感服した次第です。来年プレーできるか、正直疑問ですが、少し体を鍛えようと改めて

決心しました。

- ・試合終了後、「妻にケガはなかったよ」と電話したが「あっそう」とつれなかった。購入したシューズのゴムが劣化しないよう、来年はシュートがリングに届くよう、考えています。おじさんテニスよりはるかに激しいスポーツであることを痛感しました。
- ・第一試合のしょっぱなに右足首をねんざ、痛みはなかったのでそのまま2試合をこなしました。翌日は高校のOB会で試合、翌々日はゴルフときつかったですが、腫れが収まらないので医者に行きレントゲンを撮ったが骨に異常はありませんでした。ところがその後なぜかびっこを引きながら歩くようになってしまいました。

岩手マスターズ

会員	氏 名	年齢
	若 林 治 男	62
	吉 田 寿 仁	62
	佐 藤 淑 夫	62
	丸 山 久 春	63
	後 藤 節 夫	62
	鈴 木 繁	59
	菅 原 正 義	63
	佐久間 純 一	61
	百 々 正 博	61
	引屋敷 聖 晴	64
	高 橋 三 男	60
	佐 野 信 一	62
○	高 橋 健 悦	69
○	油 井 康	79
	今 野 庄	63
○	伊 藤 聡	63
	三 浦 真 造	66
	大 内 茂 実	66



大阪 YOYO

会員	氏 名	年齢
	山 田 治 行	60
	小 上 晋 司	60
○	杉 木 一 司	60
	湯 川 修 蔵	60
	中 江 謙 羊	60
	丸 田 博	60
	川 合 良 侍	60
	中 島 孝 治	60
	大 泉 篤	60
	下 山 保	62
	日下部 利 夫	62



大阪 YOYO 杉木 一司

ゴールデンシニア交歓大会に参加されたチームの皆様、大会運営を支えられた日本バスケットボール振興会の皆様ならびにご協力されたスタッフの皆様、お疲れ様でした。

YOYO は昭和 30 年の未年生まれを中心としたメンバーで、今年の未年に結成致しました。未年が二つ重なり、羊羊（ようよう）と言うことで、チームを YOYO に命名致しました。現在、遠く離れ、会う機会もなかなか無い昔のバスケット仲間が、年に数回集まり試合をし、酒を飲み交わすことができたらの思いから、私の中学、高校、大学時代に交友を深めたメンバーを募り、できたのが現在の YOYO です。当初、数十年バスケットをしていないメンバーは参加を渋っておりましたが、大会が近づくにつれ、やつがやるなら自分もと気運が高まり、9 名のメンバーが集まりました。また高校、大学と慶応義塾で活躍された 2 学年上の日下部先輩にも参加頂き 10 名で当大会に挑みました。そして伝統あるこの大会にメンバー全員で参加できた事を私としては大変うれしく思っております。

大会では SOS の松下さん、トロッターズの増井さんはじめ、かつて一緒に試合した方々と再会し、対戦できた事は、私のみならず、チームのメンバー全員が喜んでいる事と思います。また応援に来て頂いた、ご家族の方々の喜んでいる姿を見ていると、当大会に出場できて本当に良かったと思えました。また、熊谷組で活躍された 81 歳のチーム駄馬の山本さんはじめ多くの先輩達の頑張っている姿を拝見し「今からでも頑張ればできる」との思いと、今後もチームを長く継続しなければとの思いを強く致しました。チームのメンバー全員が同じ気持ちになってくれる事を願っております。

そして 10 年後、私たちが 70 歳になった時、70 オーバーのゲームにチーム名を YOreYOre に改名し、出場したいと考えています。各チームの皆様、対戦を楽しみしております。今後とも宜しくお願い致します。

最後になりますが、YOYO の大会参加にご尽力頂きました駄馬の橋田さん、大変有難う御座いました。感謝申し上げます。

<<女子参加チームの感想>>
入間テンドース

会員	氏 名	年齢
	宮 崎 清 美	50
	中 城 敦 子	59
	小 柳 恵 子	50
	田 村 ひろみ	50
	佐久間 尚 美	51
	青 木 美 幸	51
○	大 西 圭 子	58
	泉 炎	58
	久 居 智 子	62
○	大 関 由美子	59
	渡 辺 信 子	57
○	井 上 由美子	64
	阿 部 寿美子	58
	柴 崎 裕美子	58
	石 原 明 美	59



千 葉

会員	氏 名	年齢
○	鈴 木 マキ子	61
○	草 野 晴 美	63
○	森 由美子	61
○	渋谷 美由紀	57
	高 井 文 子	57
	大 石 由香里	51
	小 縣 伸 子	61
	本 郷 美 代	59
	池 田 あずさ	54
	西成田 美 雪	56
	大和田 千 明	51
	堀 内 文 子	53
	三 浦 多津子	60



シルバーキッズレディース

会員	氏 名	年齢
	西 村 英 子	74
○	松 田 陽 子	63
	西 谷 裕美子	58
	黒 川 純 子	61
	大 平 和 子	77
	村 尾 早 苗	58
○	中 田 光 枝	65
	奥 田 章 子	54
	廣 坂 照 枝	53
	福 井 悦 子	56
	橘 君 代	62
	山 下 尚 子	58
○	奥 田 有美子	63
	白 石 賀代子	67
	高 麗 郁 子	54
○	松 岡 英 子	65
	久 田 修	69



シルバーキッズレディース 白石 賀代子

「第 8 回全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI」が梅雨とは言え爽やかで涼しいとも感じられるバスケットの“聖地”「代々木第二体育館」で今年も熱戦が繰り広げられました。ユニフォーム姿で軽やかなフットワーク？また、目を見張る好プレー？はまさに遠

くなくなってしまったはずの学生時代そのものでした。

熱くなりすぎ、レフリーを困惑させたり、激しくぶつかり合い注目を浴びたシーンも多々ありましたが、日頃から厳しい練習？を重ねた戦いは、正に「現役」そのものでした。

「これぞ、同じ釜の飯を食った仲間でした！！」客席では家族が久し振りで逢いに來てのスキンシップや、友人との再会が和やかで温かい空気を漂わせていて“この大会に参加できている私はなんて幸せなんだろうと・・・・・・。

大会を運営して頂いた方々、プレーヤーと同じように走って笛を吹いて下さったレフリーの方々に感謝しながら懇親会場へと向かいました。

「ヴェントウーノトウキョウ」にて“乾杯”喉を潤しながらここでも男子力、女子力を発揮して時の過ぎるのを忘れるような「交流」と「絆」を深めることが出来ました。有難うございました。

！バスケットを愛する人達へ！ 「来年も又元気でお逢いしましょう」

長野クラブシニア

会員	氏 名	年齢
○	渡 辺 法 子	51
	春 日 佳 実	51
	丸 山 千 夏	53
	丸 山 房 子	57
	小 澤 良 子	61
○	塩 沢 千寿留	52
	黒 岩 孝 枝	58
	武 田 陽 子	58
○	白 谷 慶 子	68
	太 田 正 子	61
	長谷川 陽 子	67
	高 橋 ひろみ	61



長野クラブシニア 渡辺 法子

第8回全国シニアバスケットボール交歓大会に参加させていただき、ありがとうございました。とても楽しかったです。以前からこの大会に参加できることを楽しみにしていました。

昨年、対象年齢になり、代々木体育館まで来ましたが、ぎっくり腰になり、試合に出られずベンチでの応援でした。

あれから一年経ち、無事この大会に参加できたことに本当に嬉しく思いました、まず、会場で感じたことは、この歳になって代々木のコートに立てたことへの感謝です。バスケットボールが好きでずっと続けてきて本当に良かったと思いました。

自分より10歳も20歳も上の方が自分の体力に合ったプレーをし、生き生きと楽しんでいる姿を目にし、生涯スポーツとはまさにこの大会のことだなと感じました。本当に感動です。また、あと家族の協力があったのことに素直に感謝し、今年会えた方々とまた来年も会えることを一つの目標として、元気に仲間と共にバスケットを楽しんでいきたいと思いました。

本当にありがとうございました。来年もまた来ます。

男子70歳以上の部

昨年大会から始まった男子70歳以上の部には、単独で2チーム、参加チームからの選抜1チームが出場、年齢に関わらず健康増進？目指して楽しいバスケットボールを和やかに展開。会場からも大きな拍手を誘った。

この大会、最高齢はシルバーキッズの日笠 敦さんで88歳の米寿だが、オンザコートではしっかりと走って健康ぶりをアピールした。

さすがに70歳以上のゲームになると勝利よりも文字通り交歓の機運が高く、お互いにゲームを楽しんで、生涯スポーツとしてのバスケットを続ける意義を示したような爽やかさであった。

SOSプラチナ

会員	氏 名	年齢
	江 川 義 孝	72
	奥 田 晃 紀	72
	前 島 康 禮	72
○	鈴 木 進 吾	72
	篠 原 正 邦	72
○	諸 山 文 彦	72
	鹿子木 雅	72
	小 玉 晃	72
	窪 田 博 仁	71
○	小 澤 正 博	79



SOSプラチナ 小澤 正博

去る5月末の日曜日、「関東ゴールデンシニアの試合が横浜平沼体育館であるので観にきませんか」とのお誘いを受け観戦に出かけました。そこでは関東ゴールデンシニアバスケットボール連盟（平成26年度発足）の諸山文彦会長を始め、毎年全国シニア交歓大会へ出場される面々が熱戦を繰り広げていました。

いただいた当該大会の冊子によれば、諸山会長が「40歳以上がシニア、50歳以上がスーパーシニア、60歳以上がゴールデンシニア、70歳以上をプラチナシニア」と呼称し、高齢者社会が進む中、全国の仲間との交流を大切に、生涯スポーツとしてバスケットボールを楽しみ、怪我の少ない健康な日々を過ごせるようにとのメッセージが記されていました。

観戦後帰り際にその諸山会長から、「今度の全国シニア交歓大会にプラチナチームとして一緒にやりませんか」とのお誘いをいただき、すぐOKの返事をしました。

そしてすぐ後、SOSの鈴木さんから「小澤さんはSOSチームでやってもらいますので練習にも参加してください」との命令があり、早速SOSの練習に加えさせていただきました。

私は現役審判の頃、SOSの皆さんとはコート上で何度もお逢いしていたので、すぐに皆さんに溶け込むことができましたが、その練習のきついことこの上なし。地元横浜のあるクラブで毎月2回ほど練習をしていたので何とかついていくことはできたものの練習終了後は息も絶え絶えの状態になりました。

練習後はお決まりの一杯！、練習と一杯で感じたことはSOSの皆さんがかつてスーパースターだったにも拘わらず、いまだバスケットボールに謙虚に取り組む姿の素晴らしさとバスケットを通じた友情でした。当然のことながら昔話で盛り上がりいつの間にかSOSチームのメンバーに入ってしまった感覚でした。

そんな皆さんと代々木で一緒にプレーできたことに、この上ない感動と喜びを感じ、少々歳は取りましたがバスケットボールを続けていて良かったと自画自賛した次第です。バスケットボールというスポーツの絆がこれほど素晴らしいとは・・・、この歳になってバスケットの魅力をもた蘇らせてくれたSOSの皆さんに感謝してペンを置きます。

シルバーキッズ 70

会員	氏 名	年齢
○	山 本 嘉 宏	78
○	野 寄 正 一	76
○	三 谷 千 尋	77
○	日 笠 敦	88
	伊 藤 宏	74
	野 村 治 夫	77
○	上 野 正 紀	72
○	磯 野 和 彦	70
	谷 紳 一	82
	天 摩 義 信	76
	渡 邊 操 六	76
	国 分 孝 雄	75



70 ALL

会員	氏 名	年齢
	志 賀 政 司	74
	鈴 木 健 介	74
○	岡 田 忠 士	71
○	渡 邊 時 男	70
	西 郷 隆 輝	70
	望 月 慎 一	70
	大 埜 敦 彦	71
○	山 本 治	81
	村 山 繁	72
○	條 武 志	70
○	高 橋 健 悦	70
○	油 井 康	79



女子日本代表・初のオリンピック出場

1976 モントリオール・オリンピック

[歴史部]

バスケットボールはオリンピックでも有力競技のひとつだが、女子バスケットボールがオリンピックの正式種目に採用されたのは 1976 年モントリオール大会からである。

歴史部ではこれまで男子のオリンピック出場選手などに焦点をあてて、その際の状況などを調査研究してきたが、今回はオリンピックに女子日本代表として初めて出場された選手の皆さんに焦点をあてて当時の状況を把握することとした。

1976 年といえは今から 39 年も前のこと、当時出場された選手の皆さんもそれぞれ歳を重ねられているうえ全国に散住されていることから、歴史部では一堂に会していただくことには無理があると考え、今回アンケート形式による取材とさせていただいた。

お寄せいただいたアンケートに加え、モントリオール・オリンピックに出場された長井（旧姓橋本）きみ子選手に多大なご協力をいただき、以下に報告する内容となった。

モントリオール・オリンピックに出場したチームは、前年に開催された世界選手権大会の上位 3 チーム（ソ連、日本、チェコ）とオリンピック予選で選ばれた 2 チーム（アメリカ、ブルガリア）と開催国のカナダで合計 6 チームであった。

競技方式は 6 チーム総当たりによるリーグ戦で、結果は優勝：ソ連、2 位：アメリカ、3 位：ブルガリア、4 位：チェコスロバキア、5 位：日本、6 位：カナダであった。

モントリオール・オリンピック女子日本代表

(注)姓、年齢、所属はともに出場当時、身長 cm

	氏 名	年齢	出 身 校	所 属	身長
監 督	尾崎 正敏		早稲田大学	ユニチカ山崎	
コーチ	石川 武		日本体育大学	日本体育大学	
主 将	脇田代 喜美	25	宮崎高校	ユニチカ山崎	176
選 手	山本 幸代	25	夙川学院高校	ユニチカ山崎	167
	佐竹 美佐子	25	妻高校	第一勧銀	178
	宮本 輝子	24	松橋高校	ユニチカ山崎	165
	生井 けい子	24	日本体育大学	日本体育大学	163
	橋本 きみ子	23	千葉商業高校	第一勧銀	166
	大塚 宮子	23	市邨短大	日立戸塚	170
	松岡 美穂	23	薫英高校	ユニチカ山崎	165
	青沼 令子	22	清泉女学院高校	ユニチカ山崎	181
	門屋 加寿子	22	聖カタリナ女子高校	ユニチカ山崎	176
	林田 和代	22	飯塚女子高校	日立戸塚	170
	福井 美恵子	19	樟蔭東高校	ユニチカ山崎	184



後列左から、林田、佐竹、脇田代、門屋、青沼、福井
前列左から、生井、宮本、松岡、橋本、山本、大塚 の各選手

日本代表対戦成績（2勝3敗）

チーム（国）	対戦スコア	チーム（国）
日 本 ○	8 4 vs 7 1	● アメリカ
日 本 ○	1 2 1 vs 8 9	● カナダ
日 本 ●	6 2 vs 7 6	○ チェコスロバキア
日 本 ●	6 3 vs 6 6	○ ブルガリア
日 本 ●	7 5 vs 9 8	○ ソ連

出場選手得点ランキング上位10名

順位	氏 名	チーム（国）	総得点
1	生井けい子	日 本	1 0 2
2	Stoyanova	ブルガリア	9 7
2	Semenova	ソ連	9 7
4	脇田代喜美	日 本	8 0
5	Haris	アメリカ	7 6
6	Makiosovicova	ブルガリア	7 5
7	Mikiosovicova	チェコスロバキア	7 0
8	佐竹美佐子	日 本	6 8
9	大塚宮子	日 本	6 7
1 0	Turney	カナダ	6 5
1 0	Dunkel	アメリカ	6 5

以上が成績であるが、オリンピック初出場にも拘わらず代表選手は思い切り戦ったという印象が強い。初戦のアメリカに大金星を上げ、敗れた試合の中でもブルガリアとは接戦を演じており、ここで勝っていればメダル圏内だったかもしれない。個人得点ランキングのトップに生井選手が入り、脇田代、佐竹、大塚を含めて日本代表から4名が得点ランキングベスト10に名を連ねていることは素晴らしいことであった。

特に生井選手には、その得点能力から各チームが厳しいマークを行ったにも拘わらず、5試合で102得点を挙げるといふ素晴らしい活躍だった。(右写真中央)



以下アンケートにお答えいただいた中から当時の状況を振り返ってみることにする。

女子初めてのオリンピックに出場された感想については次のようにご回答いただいた。

今野（生井）けい子さん

たまたまそのタイミングだったと思いますが、当時尾崎さん始めコーチの方々が本当にバスケットボール界のために苦勞されたのではないかと思います。

武邊（宮本）輝子さん

日本代表として連れて行っていただき本当に嬉しく思っています。いつまでもオリンピック選手と云っていただき、今思えばもう少しどうにかしていたら、メダルも狙えたのではと少々残念に思われます。

大塚宮子さん

女子バスケットボールで最初のオリンピックに出場できたのは、尾崎監督始めコーチの方々、そしてミキ（脇田代）さん、ダンプ（山本）さん、ミサ（佐竹）さん、ナマ（生井）さん、この4人の素晴らしい方々のお陰と思っています。

長井（橋本）きみ子さん

どれだけ凄いことであるかの自覚があったかが分からないくらいでした。その年にたまたまワールドカップの切符を手にして、その結果オリンピックに自分も出場できるのかとか、改めて一から大会へ臨む日本のバスケットボール界が大変であったことが忘れられないです。銀メダルの期待にプレッシャーがあったように思います。今更のように大変なステージでした。

片桐（林田）和代さん

私はアジア大会日本代表に選ばれず、オリンピックへ向けた1回目の練習には代表メンバーに入らず、突然2回目からの練習に入ったうえ12名のメンバーに残り、とてもラッキーで嬉しく思いました。

以下に、アンケート項目ごとに選手の皆様のお答えを纏めてみた。

「オリンピックまでの練習について」

当時尾崎監督が大阪のニチボウ山崎におられた関係から合宿は殆ど大阪で行われ、参加

した各選手からその厳しさが伝わる下記のような答えがあった。

殆どの選手が所属していたチームとかけもちで練習し、全日本の合宿に合わせたコンディション作りや、長時間の練習、男子の大学生や高校生のトップクラスと体温より高い気温の体育館で練習試合をしたこと。なかには自分の所属チームの練習と両立させるため、東京と大阪の間を始終往復していた選手もおられ、2週間の全日本合宿、1週間仕事と自チームの練習、また全日本合宿参加と現在では考えられないような環境で相当厳しい練習に励んだようである。

「辛かったことは？」

その答えは下記のように素晴らしい内容であった。

諸外国に勝つことが目標だったので、厳しい練習は当たり前であり辛いとは思わなかったし、当たり前だと思って練習に励んだ。練習中たまたま監督が怒って、5対5のラリーが延々と続くようなエピソードもあったとか。

「オリンピックまで、高いモチベーションの維持について」

高いモチベーションを維持していったことが多くの方の答えとしてあり、当時のチームワークの良さと団結が浮き彫りになった。

合宿や練習試合のなかでもチームの足を引っ張らないように、心身ともに必死でコンディション調整をし、全日本の合宿と自分のチームの練習で休む間もなかった。しかし各人が、怪我をしないように気持ちの切り替えをしっかりと心がけ、上級生は下級生に、下級生は上級生に、良い体調で臨めるようにとマッサージなどいろいろな面で支え合った。

「オリンピックで何を大切にプレーしましたか？」

“冷静にそして大胆に！”を始め、コート外で怪我をしないように行動する自己管理であるとか、自分自身の気持ちを乗せるようにするなど、殆どの回答がメンタル面に重きをおいていたことを表明する内容であった。常に全力でプレーすることと、自分のプレーをしっかりとやれるよう、全員がレベルアップに努めたことは素晴らしいことである。

「オリンピックで一番印象に残っている試合は」

強豪アメリカに勝ったことをあげた方が多く、大接戦を演じて敗れたブルガリア戦のことをあげた方が次いで多かった。やはりメダルを目標にしていたことは当然だったであろう、ブルガリア戦に勝利していれば3位だったかもと、残念に感じていたようだ。リードしていたのに逆転されたこともあり、印象に残った試合のなかでも特徴的だったと思われる。

「チームメイトとの思い出」

上級生は下級生を思い、下級生は上級生を敬う明るい素晴らしいチームだったようで、海外遠征、国内合宿など思い出もすこぶる多く尽きることはないようだ。先輩、後輩、同級生に恵まれて、最高のチームメイトと答えられた方もおり、しっかりとコミュニケーションをとり、お互いに励まし合って笑顔を絶やさず、練習が終わった後などは楽しい時間を過ごしたようである。

以上、主にオリンピックまでの練習を中心に取材してみたが、監督が大阪におられた関係から、2週間毎の厳しい合宿練習のために大阪へ出向いたあと、また自分の所属チームへ戻る選手もいて、必然的に心身ともに鍛えられたチームになっていった様子が理解できる。

そして自分のみならずチームワークを大切にし、12名全員のモチベーションが高められるようお互いに気配りしながらの合宿だったことが容易にうかがえる。

更に、選手村について尋ねてみたところ、環境面ではいろいろな設備も整っていて特に問題もなく、異口同音に良かったという答えが多かった。

食事については、主食にご飯を食べるため日本からコメを持参して自炊をしたり、選手村のバイキングで好きな物を食べたりと、不都合はなかったようである。

しかし外国選手との交流については、言葉の関係かどうか殆どなかったようである。

モントリオール・オリンピックで日本代表の成績は2勝3敗で、メダルには届かなかったが各々の試合を振り返ってもらった。

初戦対アメリカ、勝利（84：71）

○力の差はなかったと思いますが、プレオリンピックの際に監督の尾崎さんが、アメリカの戦術を緻密に分析されて日本の戦い方を指導されたお陰だと思います。

○尾崎監督やコーチの方々がアメリカは必ずオリンピックに出場するだろうとスカウトし、日本への招待試合や、世界選手権などで対戦していたのがよかったと思います。

○当時アメリカではバスケットボール競技が女子にはハードなのであまり力を入れてなかったのかも。

対カナダ、勝利（121：89）

○開催国枠チームで元気のあるチームでしたが、ディフェンスからの速攻で走り勝ちました。

○他のチームより力の差があったように感じました。

○忍者ディフェンスからの速攻が良かったです。

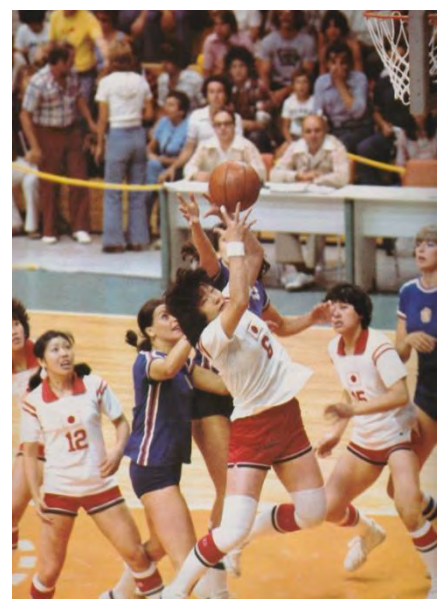
対チェコ、敗戦（62：76）

○お互いに手の内を知っているチーム同士で、自分たちの力を出し切れなかったと思います。

○遠征や日本での招待ゲーム等で何度も対戦していて、お互いに知りつくしていたのでやりにくかったです。

○相手の身長が高くてリバウンドが取れませんでした。

○何度も対戦してプレーもわかっていたのですが、上背の高さと相手が日本のやることをよく知っていて対抗できませんでした。



対ブルガリア、惜敗（６３：６６）

- 負けて一番残念で悔やまれる試合だったと思います。
- 勝ちたかった試合です。自分自身力を出し切れず申し訳なかったと思っています。
- オリンピックの前にモスクワ遠征した時に試合をしたためか、日本のプレーが読まれていました。とても残念な試合でした。

対ソ連、敗退（７５：９８）

- 力に差があるチームと思いました。
- 尾崎監督から、「どの試合でも最後の１秒まであきらめずにコートでプレーしなさい」との言葉に従って、みんなが最後までプレーしたと思いますが、力の差はかなりあると感じました。
- 忍者ディフェンスのＣをやって相手のミスを誘ったオフェンスでチームの流れを引き寄せるとき、大事なレイアップシュートを落としてしまったことがいつまでも記憶にあります。
- センターのセメノバの身長（210cm）に勝てなかったです。

当時２メートルを超す女子選手は世界でも珍しかったようで、印象に残っている外国人プレーヤーについては殆どの方がソ連のセメノバを挙げている。

以上のアンケートから見えてくるものは、高身長の手相手に対する厳しいディフェンスと日本人特有のすばしこいプレーで、世界の競合国を相手に対等に戦った模様である。

そしてそれらを生み出したものは、厳しい練習とチームワークであったことがアンケートからも検証される。

更に、近い将来のオリンピックに日本が出場することを前提に、選抜された選手達へ何かメッセージをと尋ねたところ多くの方から以下のようなメッセージをいただいた。

「次のオリンピックに出場する選手へのメッセージ」

オリンピックはチームと個人にとって最高の舞台です。思い切りプレーすることと、悔いの残らないよう全力で戦っていただきたいと思います。大事なのはディフェンスとリバウンド、そして外角シュートの成功確率を上げ、オールコートでのディフェンスを頑張れば勝機はあると思います。

バスケットボール競技をメジャーするためにも是非メダルを取ってきてください。一人一人が悔いの残らないように頑張ることと、チーム一丸となることがメダルへの道だと思います。

バスケットボール界発展のためにも期待していますが、怪我をしないことや自分の役割を明確にしてプレーすることも大切です。

最後にバスケットボール界へのご意見を聞いてみたところ、異口同音に次のような答えが返ってきた。

「バスケットボール界への提言」

F I B Aから制裁を受けたJ B Aは早急に問題解決にあたっていただきたいです。選手達が安心して練習や試合に臨めることや、子供たちに夢と希望を与えられるような対応が必要だと思います。選手のプレーヤーとしての時間は、長い人生のなかでみれば一瞬なのです。F I B Aの制裁を解除していただき、代表選手の方々にはオリンピック出場への切符を手にして世界のバスケットボール競技を目で実感するとともに、日の丸魂を持って諸外国と戦ってください。

また、オールジャパンの際の空席も気になります。現役選手を始め関係各位の皆様にはファンを増やして観客を満杯にして熱気あふれるオールジャパンを実現してください。

結びに

アンケートや直接ご協力いただいた長井さんから、早世された方がいることや二世がバスケットボール界で頑張っていることなど、様々な情報をいただいたことに心から感謝します。

.....

忍者ディフェンスとは

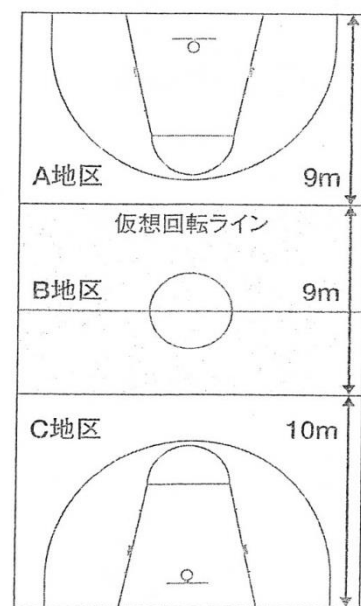
文中に登場する忍者ディフェンスは、当時の日本代表チーム監督の尾崎正敏氏の考案によるもので、日本人特有のスピードと身体の特徴を生かしたもので、その概要を下記する。

尾崎監督は高身長の世界と戦い勝つためには、相手に嫌がられるようにオールコートでのディフェンスを駆使する必要があると考えた。右の図のようにコートをも3地区に分ける仮想を立て、一例としてA地区ではマンツーマン、B地区ではXチェンジ、ラン&ジャンプ、トラップングを入れながらゾーンプレスに変化、C地区ではマンツーマンやゾーンでマッチアップするといったように、常に変化するディフェンスを激しく行うもの。

また、C地区においてはボールを持っていない相手のスクリーンにおいても、徹底してスイッチアップを行い、相手がゾーンなのかマンツーマンなのか惑うようなディフェンスを敷く。

終局的にはオフェンスに簡単にボールを持たせず、悪いシュートを打たせ、リバウンドに対しては徹底したスクリーンアウトとジャンプによってボールを確保する。

このようにして高身長相手のゴール近くでのプレーを阻害し、ボールが極力ゴール近くへ入らないようにディフェンスすることによって、インターセプトのチャンスを増やすもの。更にA、B、Cと3通りのバリエーションを備え、絶えず変化しながらのディフェンスで試合を戦い抜く。(資料提供 早川忠雄氏)



中体連初心者向けクリニック開催

[総務部・普及部]

本年5月10日(日)に世田谷区で、17日(日)には京都市で、地元中体連主催、振興会応援の中学生初心者向けクリニック「シュートを上手くなろう」が開催された。

本クリニックは4年前に世田谷区の中体連バスケットボール部専門委員の先生方のご理解とご協力を得てモデル事業として開始、昨年からは振興会会員で京都在住の藤野氏のご協力も得て京都市でも開催している。その狙いは、中学入学後、バスケットボールを始めた生徒がシュートの面白味を体感することで3年間、部活を続けるモチベーションをアップさせることにある。

世田谷区の例では本クリニックに参加した男子生徒が、2年後に区内オールスター戦に選抜されているといった嬉しい実績もあるが、定量的な分析はいまだ手つかずの状態にあり、この点はこれからの課題である。加えて本クリニックでは参加生徒各自に文武両道の大切さを理解してもらうための資料と、バスケットボールで日常的に使われている英単語や英文を記載した資料を配布している。英語、特にスピーキングはこれから日本のバスケットボール界を支えていく人材、とりわけ高校、大学から英語圏の学校に留学を志す生徒にとっては必須科目であり、バスケットボールがハビット・スポーツといわれるように英語も毎日、慣れ親しむことが上達への近道である。

最近ではあるクラブで英語によるクリニックが実施され始めたが、その所以もこのあたりにあると思われる。以上は、本クリニックの肝の部分でもあり、これからも拘り続けてゆきたい。願わくは、本クリニックと類似のクリニックが全国各地で開催されることが望ましく、「一過性のブームではなく文化にまで高めていければ」と切に願う次第である。

世田谷区クリニック

女子6校35名、男子8校53名と予想を超える参加者を得て、午前は女子(蒲田副理事長担当)、午後は男子(結城理事担当)とそれぞれ約2時間半、「シュートを上手くなろう」とのテーマのもとクリニックを実施した。本年も東京海上日動ビッグブルーから新人選手4名を含む7名をボランティアで派遣頂いたことに謝意を表したい。

<結城講師のクリニックのポイント> 総論・理論編

- ・バスケットボールとはどんなスポーツか、狭い場所で10人がひしめきあって、状況がめまぐるしく変わる。その状況が変わる中、瞬時に状況を把握し、自分は何をしたらよいか瞬時に判断し、瞬時に行動に移すスポーツです。

従って、

- ① 身長ポジションに係わらず、まず



状況を“見る”ことが大切です。

見る為のポイントは、自分の目の高さより絶対下を見ない、視線の高さは、常にリングの高さを目安にする。するとコート全体が見え、状況が把握できる。

- ② “判断”ですが、正しい状況判断をするには、経験が必要です、従って初心者は、失敗を恐れず、プレーすることをお勧めします。失敗、成功の経験を重ねることにより、成功率が高まります。

- ② 瞬時に“行動”する。

その為には準備の姿勢が必要です、バスケットボールと言うスポーツは、大きく分け 8 方向（前後、左右、上下、回転）の動きを多用します、その 8 方向に最も早く動ける準備の姿勢、それを、私はバスケットボールスタンスと言っております。足は肩幅より少し広く開き、つま先と膝は進行方向に向け、視線は目の高さより上、重心は拇指球に、その姿勢をキープし膝を曲げると踵が浮き重心が親指の拇指球にかかります、それがバスケットボールスタンスです、はじめは辛い姿勢ですが、この姿勢が出来ないと、成功率を高めることは出来ません。

ポイントは上半身を起こし、下半身主導で動くことです。

- ・バスケットボールはチームスポーツです。従ってコミュニケーションが重要、思ったこと、感じたことは常に声で示そう！これも技術の一つです。

又、習慣性の最も強いスポーツでも有り、練習でのドリルは正しく正確にこなすことが大切です、決してスピードを優先しては駄目で、悪いクセが付く原因にもなります。

言葉に出す、正しくドリルをこなすなど、正しいことを毎日根気よく繰り返すことがスーパースターになる一番の近道です。

“ボールは総て指先でコントロールする。”

パス・ドリブル・シュートは総て指先でコントロールする。従って、シュートが上手くなるためにも指先を強化することがポイントです。

各論・実践編

○コートのラインに沿ってランニング（外足ターン、内足ターン）

- ・ターンしたあとの 1 歩目を大きく踏み出すこと。

○バスケットボールスタンスを意識しての前後左右の動き

- ・スピードより正確性が大事、このことで状況の変化に体が対応できる。

○ボールハンドリング（指先でコントロール）

- ・バスケットボールスタンスを保ってかつボールを落とさないこと。

○ドリブル

- ・基本は床と手のひらは平行に。つねにディフェンスを想定して。
- ・ドリブルはできるだけ低く強く、肘は体につけ、床にシュートを打つ感触で。
- ・ディフェンスを抜くにはドリブルの切り替えでスペースを作り（そのためには重心は後ろに移動しておく）、その後の 1 歩を大きく踏み出すこと。そのための技術としてスピントーン、ロールターン（いずれも上体を起こさない）、レッグスルー（前足に体重）、バックビハインド（フロントドリブルと同じ感覚で）、等がある。

○シュート

- ・バスケットボールスタンス、つまり膝を曲げた状態のまま、上に飛ぶことが大切です、

勢いをつけるために沈み込まないこと。そして常にリングに正対、肩の線はフロアと平行に保つこと。指先でコントロールし、ボールを指先で追いかけるイメージ(指先がボールより下にならないように) 手首はあまり使わないこと。

- ・ボールを放り出す角度（高さ）はリングを見た時にボールが視界から消える感じで。
- ・ドリルは近いところから同じ距離で始めて徐々に遠くに(最初に遠くからだとフォームを崩す)、そして指先が強くなれば、バリエーションも可能。
- ・どうすればシュートが上手くなるか。端的に言えば、指先でのボールコントロール。そのために、いかに指先に神経を集中させることができるかがポイント。手首を使うと方向性は良いが、距離感のアジャストが難しい。
- ・ドリブルの延長がシュートであり指先に感覚を常に持つこと。



<結びに>

世田谷学園の古見先生はじめ、世田谷区中体連バスケットボールの先生方のご理解とご協力を得、振興会として今年も協力させて頂いた。当日は5校から延べ8人の先生方にも生徒さんの引率でご協力頂いた。関係頂いた先生方には本誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

京都市クリニック

女子3校16名、男子2校22名、計38名の参加者を得て、結城理事により約2時間半、「シュートを上手くなろう」とのテーマのもとクリニックを実施した。本年も地元の同志社大学の男子2名、京都教育大学の女子3名がボランティアでお手伝い頂いた。謝意を表したい。

<結城講師のクリニックのポイント>

総論・理論編
世田谷区に同じ
各論・実践編
世田谷区に同じ



<結びに>

京都市での開催は2回目であるが、今回も振興会会員で京都市在住の藤野英雄氏、京都府中体連専門部委員長で龍谷大学付属平安中学校教諭の岩崎広行先生には大変にお世話になった。誌面を借りて厚くお礼申し上げたい。

また、京都府協会副会長の富井富氏、振興会会員の手塚純氏にも会場までお運び頂いたことを申し添える。



人物抄

並木 浩 さん



並木さんは、昭和5年(1930)3月、東京世田谷の生まれで今年85歳を迎えられ、神奈川県厚木にお住まいでお元気である。この頃の諸先輩はご多分にもれず旧制中学3年のとき学徒動員となり、並木さんも東京大田区の日本特殊鋼という鋼鉄製品を製造する部門へ派遣され、手作業で鉄の圧延作業に取り組まれた。

そして1年足らずのうちに終戦となり、中学4年生として復学されて卒業後青山学院専門学校建築科へ進学された。この頃ご本人は将来は建築関係の仕事につこうと思っていたらしい。

バスケットボールについては、6歳年上のお兄さんが青山学院で取り組まれていた影響もあって中学時代に始められた。

並木さんのバスケットボールが本格化したのは戦後まもない昭和21年(1946)、焼け野原となった一角に何故かバスケットのゴールだけが残っていた。専門学校建築科へ入った並木さんが同級生二人とそのゴールに向かって遊んでいたのが青山学院バスケットボール部再興の始まりであった。部員募集の努力の甲斐あって、翌昭和22年(1947)には部員が10名となり対外試合ができる体制となった。

その後学制が変わり、並木さんは昭和24年(1949)新制大学となった青山学院大学へ編入されたが、学部は建築とは全く異なる商学部であった。したがって青山学院には専門学校時代を含めて7年間在籍されたという。

大学バスケットボール部となった昭和24年、並木さんはマネージャーとして部の面倒をみる立場となり、新制大学として既に復活していた関東大学リーグへ加入することを望んだが、旧制大学側の意向もあって実現せず、新制大学による新リーグの結成へと尽力を始めたのである。当時雨後のタケノコのように新制大学が増えたことから、旧制大学リーグとしてもチーム数が一挙に増えることに対応できなかった背景もある。

こうした状況では、やむを得ず新制大学リーグを立ち上げるしかない判断した新制大学の有志が集まり、関東大学新連盟と称する組織を立ち上げ、初代委員長に故梅戸仁氏(武蔵大学、元振興会会員)が就任し、並木さんを始め各大学の有志が協力することになった。当時並木さんと同期生だった日体大の稲垣さん(元振興会副会長)も新制大学リーグ発足にあたり並木さんたちに協力した。

並木さんをはじめとする関東大学新連盟役員の努力によって、昭和25年(1950)秋に新制大学第1回目のリーグ戦が開催され、1ブロック6チーム編成で3ブロック、合計18チームが参加、青山学院大学は全勝でブロック優勝を果たしている。

このことを契機に大学の部員数も一挙に増え、並木さんのマネージャー業務も必然的に増えていったが、大学の強化を図るための奔走と新連盟の運営をスムーズに行うため、多忙な日々を過ごしておられる。

昭和26年(1951)には並木さんをはじめとする提案で「青山学院バスケットボールユニオン」と称する組織を立ち上げ、青山学院大学男子、女子短大、高等部男女、中等部男女がこれに加わり、青山学院が中学、高校、大学と一貫してバスケットボール競技に取り組む

ユニオンがスタートしている。

このユニオンのお陰で、若い方のチームへ大学生が出向いて技術的な指導をする体制が確立されるなどして、青山学院のバスケットボール部発展の礎となったことは間違いない。

並木さんは最終学年の昭和27年(1952)度までマネージャーとして青山学院全体の発展に尽力し翌28年卒業される。

青山学院大学卒業後は商学部だったことから証券会社である望月証券へ入られたが、望月証券は後に角丸証券となり、その後勧業証券と合併し現在みずほ証券となっている。

並木さんは「証券会社現役の頃は、お客さんが買い求めた株の価格は全部頭に入っていたけど最近では忘れっぽくてねー」と苦笑いするが、この頃大学バスケットボール部OB諸氏から要請されてOB会の幹事長を務められている。

二つに分かれて運営されてきた関東大学の旧と新の両リーグは、昭和41年(1966)に合併して関東学生連盟が発足したが、この頃青山学院大学は東京渋谷区青山に観客席を持った大きな記念体育館を完成させ、関東学生リーグでは2部あたりで戦っている。

しばらく大学OB会の幹事長を引き受けられていた並木さんだったが、昭和57年(1982)、OBの方々から要請されて監督として直接バスケットボール部に関わるようになる。それは青山学院大学がチームを強化するため、推薦入学制度とともに外部からコーチを招請することとなり、日体大OBである浮田剛氏（故人）をヘッドコーチに迎えたからである。浮田氏は神奈川県の高校強豪校だった相模工大付属高校を指導していた実績の持ち主で、その手腕には定評があったが外部招請だったことから、全体をまとめるために並木さんを監督へと、白羽の矢がたったようである。並木さんによれば、青山学院出身の監督実現までの間OB会の要請によりつなぎ役を果たしたとのことであった。

以来平成元年まで連続8年間にわたり、ヘッドコーチは変わっても部をまとめる立場の監督として並木さんの手腕が発揮されることになる。ご承知の方も多いと思うが、関東大学の中で青山学院大学が突出するようになったきっかけもこの頃にある。

その頃のことを並木さんに尋ねると、外山選手（熊谷組～日本代表選手）が入ってきてから急に強くなり、1年後に広瀬選手（熊谷組～現青山学院大学監督）や小島選手（NEC～現WJBLデンソーヘッドコーチ）たちが入学して選手層の厚みが増していたと言う。

並木さんが監督に就任している間、ヘッドコーチが浮田氏から田渡氏、長谷川氏へと交替したが、チームの要としての存在が続き成績もインカレで準優勝するなど、その後の学生界における青山学院大学躍進の原動力になった。その後OBの長谷川氏（現男子日本代表ヘッドコーチ）がヘッドコーチに就いてからインカレ制覇など素晴らしい成績を残し、OB会の後援活動もあって学生界トップクラスが続いた。

本年正月の箱根駅伝において、青山学院大学がブッチギリで優勝したことはご存じの通りだが、並木さんは「スポーツにおいては、どんな競技でも努力して勝つことに発展性が宿る」と強調される。日本のバスケットボールがもっと国際的に強くならなければ発展しないのではないかと危惧され、そのためには選手が外国へ出て行って自分の技術を磨き、鍛えた方がよいと言う。そして周囲は、選手が安心して国際社会で活躍できるような環境を整えてあげることも大切と強調されたが、青山学院大学で長期にわたって監督を務められ、数度にわたる韓国遠征などの経験からの貴重なご意見と承った。

大学の試合は、春のトーナメント、新人戦、秋のリーグ戦、インカレ、オールジャパンと全ての試合を観戦に出かけるとのこと、ここでもバスケットボールに情熱を傾ける並木さんの姿は今なお健在である。

会員だより



バスケットボール湘南だより（その 11）

◇◇ミニバスを支える園児へバスケット・ゴールを配ろう!!◇◇

中瀬 達雄

◆じわじわと減っているミニバス選手◆

日本協会の登録データによると、全国的にも神奈川県でも、ミニバス登録人員は5年前をピークにして漸減傾向が続いている。現に神奈川県内のチームをみても、登録チーム数は増えてはいるものの選手数は減り、1チーム10人未満で公式試合に出場できないチームが全登録の10%を超え57チームにもものぼっている。

◆とっくにサッカーは幼稚園でやっている◆

全国的な少子化傾向の中で止むを得ない状況とは言えるが、その中で他スポーツとの競合もある。先日のテレビでは、プロ野球選手OBが集団で子どもへの大々的な講習会を開いていた様子が放映された。サッカーは、幼稚園での有料サッカー教室の開催を積極的に展開し、受講の子ども2人でもコーチを毎週派遣しているそうである。

◆幼稚・保育園児を集める難しさを逆手にとって、こちらから◆

平塚バスケットボール振興会（※後記参照）は、すでに本誌で報告したとおり、b j 横浜ビーコル廣田会長のご努力に協力して、幼稚園生を対象に体験会や親子バスケット会を数回開催してきた。しかし、それから先、常設的な活動へ繋げることは予想以上に難しく、体験会の継続開催も会場確保や参加者募集の面でそう簡単には出来ないのが実情である。

そこで、人を集めることとは逆に、幼稚園にバスケットゴールを置き、自主的にバスケット体験をやって貰おうと考えた。関東大会や全国大会の懇親会で各地役員から聞いた、会議室での幼児体験教室の開催や地区協会のゴール配布の話がヒントとなった。

◆意外に難しかったゴールの確保◆

まずは、配るべき幼児用バスケットゴールの調査から始めたが、すでに、b j 横浜ビーコルが使っていたメーカー・スポルディング社のカタログを取り寄せた。おおよその予算を頭に入れ、問合せしたところ、お目当ての型番は販売中止という返信メールを貰い困ってしまった。ネットで探してみると、いくつかの商品が見つかったが、いずれも小さな写真だけで詳細なゴールの仕様が把握でき



ない。納品先で現物を見たいと問い合わせても、どこも応じてくれなく、途方にふていてたところ、廣田氏のお世話でまとまった数量でスポルディング社が扱ってくれることになった。初めは10台ほどを考えていたが、価格も折り合ったので20台を買い取ることにした。ボールは、100円ショップのビニールボールを5個ずつつけることにして、100個を別注購入した。

◆まずは、市内幼稚園23園に募集案内を発送◆

とりあえず、物品の見通しができたところで、平塚市内の私立幼稚園23園に「幼児用バスケットゴール寄贈配布」の案内を発送した。この他に、市立幼稚園と保育園があるが、何とも手ごたえがわからないので、まずは私立幼稚園を対象を絞ってみた。

案内の内容は、幼児用バスケットゴール1台とゴムボール5個の無償提供で、2台目を希望するときは実費負担をお願いした。設置作業と導入指導は無料で行うが、以降の管理責任は各園で持ってもらようよう確認している。

一方、地域紙「タウンニュース」編集部にも資料を送り記事掲載を依頼したところ、50行ほどだがタイミング良く案内記事を掲載していただいた。後にこれを見た保護者が園長に申し出て、園から申込んできた例もあった。

◆「やらないよりまし」みんなでやりましょう◆

7月末で、10園近く10数台の申込みが来ていて、順次設置を進めているが、屋外設置希望もあり猛暑の中での作業は年配会員には厳しいので、完了は9月になるかも知れない。ゴールを置いたからすぐにミニバス希望者が増えることに直結はしないだろう。しかし、各園にすでにあるというサッカーゴールよりは、楽しく面白く遊んでもらえると思う。サッカーと違って一人でもできるのだが、全部が入らないシュートの難しさが興味を引くからである。

オリンピックのメダルで選手希望者が急に増えると言う場面が期待できるバスケットボール界ではない。「選手が少ない・途中で辞める」などをミニ、中学、協会、連盟が悪口を言い合っているだけでも何の生産性もない。「やらないよりまし」の気持でみんなでやりましょう。

◆平塚バスケットボール振興会とは◆

この事業を進めている「平塚バスケットボール振興会」は、協会・連盟の下支えをしようと、10年前に設立された。主として役員・選手のOBが会員となり、その会費を財源として、この種事業のほか各連盟事業への補助や上位大会出場チームへの祝い金などに使っている。

【参考；幼児用ゴール；SPALDING社製ジュニアシリーズ58576N 定価15,000円+
ボール；ダイソー社販売 10インチカラフル(ジャンピング)ボール 定価100円+】
[平塚協会会長]



38年間の高校教員生活を終えて（その4）

—— 果てしなき夢を見続けて ——

須田 武志

晴れのち雨、そして曇り

（指導者・部員）

雨の日も休まず、風邪の日も休まず、国鉄（現JR）や私鉄のストがあっても休まず、暴風雨警報が出て学校の方が安全だといって休まず、1年365日一日も休まず遅れず、学校を休むのは自分の葬式だけ。

（指導者）

放課後になれば時間休暇を取り、コートには部員よりも早く立ち、その間椅子には決して座らず、最後の一人が帰るまで黙して待ち、夏の暑い日にはショートパンツ姿で立ち、冬の寒い日にはジャージ姿で立ち、食べ物は決して残さず、コーヒーも飲まず、煙草も吸わず、酒やビールは口にせず、飲むものと云えば牛乳とお茶だけ、車の免許も持たず、試合があれば自費で参加する。

（部員）

部員はマチマチの練習着を着て、試合にはボロボロのユニフォームを着て審判に注意され、「練習で泣いて試合に勝って笑え」と教えても、試合に勝ったからといっては泣き、試合に負けたからと云っては又泣き、遠くへ遠征や公式試合に行くときは青春18切符で行く。

（指導者）

怪我人が出たからと云ってはタクシーを呼び、東に音楽会があると聞けば走って聴きに行き、西に能楽があると聞けば走って見に行き、北に退部するという部員があれば自転車に乗って家まで行き、情が移ってにっちもさっちもいかず、やめようにもやめられず、この道とうとう30余年、ボクはそういう指導者にはなりたくない。

教え子

持つべきは医者と弁護士だとよく云われるけれども、バスケットボール部の教え子の中に医者や弁護士がいるということは、他の学校他のチームではあまり考えられないことであろう。教え子の中に医者をしている者がたくさんいるけれど、医者の中でもとりわけ整形外科の医者があると重宝である。バスケットボールの場合どうしても怪我がつきものであるし、また怪我の予防対策についても私が話していることを、整形外科の医者が言ったら途端に効き目が出てくるから不思議である。

この整形外科医はクリニック医院を開業している。彼は高校1年の時と3年の時に2回インターハイを経験している。こういう卒業生が医者をしていると患者の治療にもおおいに役立つ。彼は毎週水曜日の夕方、自分のバスケットボールの練習を兼ねて体育館へ足を運んでくれる。部員の健康相談にも気軽に乗ってくれる頼もしいチームドクターでもある。

バスケットボール部の財政が窮乏に陥っているのを心配して、12個入りのテーピングテープを1ダース(12×12=144)、毎回無償で届けてくれるから大助かりである。

マネージャーのこと

転勤した時にいた男子マネージャーが卒業してしまって困っていた時に、女子チームの主将をしていた部員が女子部を辞めてしまった。それを聞いてその生徒に男子部のマネージャーをやらないかと誘ってみたところ、何の抵抗もなくマネージャーを引き受けてくれそれが2年間続いた。さすがに元主将だけあってしっかりしている。大の男子選手が女子マネージャーの指図に不平不満を言わずについてくる。このあたりから女子マネージャーの基盤が出来あがってきた。

その後は毎年4月になると新入生の中から女子マネージャー志願者が10人近く出てくるといふ、何故か不思議な現象であった。マネージャーは各学年に1人、多くても2人で十分であり、それ以上いると何かともめ事が起きるのが女子の常である。大勢のマネージャー志願者から、1～2人を選ぶのは大変なことである。これには私もノータッチ、上級生のマネージャーにいつも人選を任している。後から恨まれるのがイヤだということもあったが、上級生のマネージャーが自分とウマが合いそうなマネージャーの方が仕事がし易い。上級生マネージャーが志願者を集めてかなり厳しい事を言っているのが、それとなく聞こえてきた。「バスケットボール部は伝統もあるし実績もある。それに非常に厳しい部だから、やる以上はそれなりの覚悟を持って入ってきて欲しい」というようなことを言っている。その効果があってかどうか、次の日には人数が半分に減ったが、それでもまだしつこく4～5人は残っていてここからが大変である。

3年生のマネージャーが「マネージャーは自分の家の葬式以外は練習を休んではいけない」というようなことを言っていたのがそれとなく聞こえてきた。これでは次の日は1人も入ってこないだろうと思っていたら、気の強そうなマネージャーが2人、「最後までやりますからよろしくお願いします」と言っ私のところへ挨拶にきた。頼もしいマネージャーである。こういうことが毎年続き、先生のいうことよりマネージャーのいうことを良く聞く風潮が出来あがった。これで先生の私がいなくても練習がスムーズに進行できるようになった。

仙台インターハイ

平成2年(1990)8月に仙台で行われたインターハイは、本校バスケットボール部創部以来、インターハイ出場20回目となる記念すべき年となった。部員が40余人いたので費用がかさむこともあって、JR膳所駅から仙台駅まで往復ともに「青春18切符」を利用して、片道15～16時間の長旅となったが、交通費は1人1万円以下で収まった。

1回戦の試合開始がたまたまその日の第1試合目であったことから、早い時間から試合コートでのウォーミングアップができた。第1試合目と云うこともあって、応援の家族も早い時間帯から体育館に詰めかけた。女子マネージャーの吹く笛の合図で、大の男が一斉

にきびきびと動く姿を見て、応援に来ていた母親たちはビックリ仰天、彼らは平素休みの日は家にいても勉強もせず、ただ寝てばかりのグウタラな生活を送っているという具合にしか、親たちの目には映らなかったのだろう。

試合が終わった後体育館を出るとき、ウォーミングアップ時に女子マネージャーの吹く笛の音で大の男たちがきびきびと動く様を見て感動したある母親が一言、「家に帰ったら私も女子マネージャーよろしく、グウタラな息子に“ハイ勉強”という具合に笛を鳴らしてみようかしら」と言って大津へ帰って行った。インターハイから帰った後母親が本当に笛を吹いて指導したかどうか定かではないが、その部員は超最難関である両親の出身大学と同じ大学に合格している。

バスケットボール部は日曜日と木曜日に練習を休む週休2日制で活動してきたが、あるとき事情があって木曜日に練習を行うことになった。前日の練習後にマネージャーが「先生、明日の木曜日は塾に行く日なので部活動を休ませてください」と言ってきた。

何を言っているか、バスケットボール部員の塾通いは禁止と言っているのにと怒り心頭。「塾は休めないのか」と聞くと「私は塾へ勉強しに行くのではなく、小学生に勉強を教えに行っているのです」との返事、これには二の句が継げなかった。

[元滋賀県立膳所高校男子チーム監督]



早稲田大学戸山キャンパス記念会堂

建て替えて地下に多機能型スポーツアリーナ新設

坂 本 博

母校の早稲田大学は、戸山キャンパス記念会堂を老朽化に伴い、58年の歴史に幕を降ろして建て替え、スポーツミュージアムや学習スペースなども併設した多機能型スポーツアリーナを新設することを決定したと報じた。

バスケットボールでの記念会堂は大学連盟の競技が多く開催されていたが、ここに、ネットで公開された新設のスポーツアリーナを紹介したい。

完成予定は2019年3月で、アリーナは地下2階地上1階部分に配置し、屋上にあたる地上部には緑豊かな丘状の広場を設けるなど先進的な設計の施設となる。

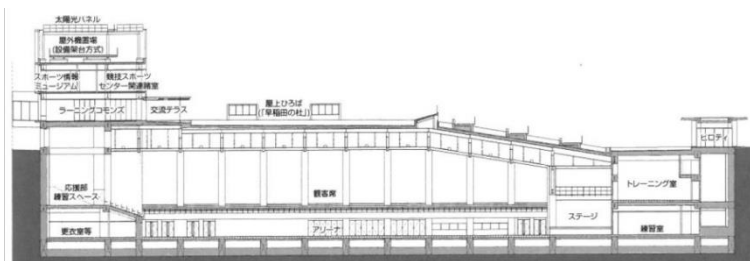
新しいスポーツアリーナには地上4階建ての高層棟も併設し、交流ラウンジやスポーツミュージアム、学生たちがディスカッションを行うラーニングコモンズを設置する。アリーナを地下に置くという特性を活かし、地熱を利用した空調システムや雨水の循環システム、太陽光発電システム等を組みあわせ、「スーパーローエミッションビルディング」と「ゼロエネルギーアリーナ」の実現を目指し、非常時には防災施設としての役割も果たして、周辺地域にも貢献していく構想である。

新アリーナは各種スポーツ競技や大学式典で使われるほか、緑化された小高い広場は「早稲田の杜」として学生たちの憩いの場ともなり、キャンパスの景観を大きく変える大学の新たな顔となるであろう。

新スポーツアリーナの全景（完成イメージ）



多機能型スポーツアリーナ断面図と内部（予定）



現在の記念会堂は早稲田大学の創立 75 周年を記念して 1957 年に建てられ、スポーツ施設としてだけでなく、大学の式典会場として利用されて、昭和 30 年代バスケットボール全日本総合の会場にもなっている。1964 年の東京オリンピックではフェンシングの会場にもなった。

設 備 の 概 要	現在の記念会堂 2016 年 3 月既存解体	新スポーツアリーナ 2019 年 3 月～建物供用開始
建物構造	地上 2 階	地下 2 階地上 4 階
延床面積	5,904 m ²	13,580 m ²
収容定員(式典時)	5,150 人	6,136 人(観客席 1,824 席)

7 月は「さよなら記念会堂」と銘打った、各種スポーツ・学生団体によるイベントが企画されており、バスケットボール男子・女子部も 7 月 5 日に「さよなら記念会堂メモリアルゲーム」が開催されて多数の O B ・ O G 連も加わり名残りを惜しんでいた。



早稲田大学記念会堂

《参加者全員で早大校歌斉唱》



[早稲田大学 O B]

第34回 全国ママさん交歓大会 結果

本大会は、7月24日から27日まで北海道札幌市で開催されたもので、当振興会が支援している。

	ブロック	優勝チーム	準優勝チーム	第3位チーム
一般	A	ブルーインズ・レッツ(埼玉)	デレッターズママ(東京)	Cool de beauty(神奈川)
	B	清水西クラブ(静岡)	UPPERS(青森)	多治見エルクラブ(岐阜)
	C	ハンプティ ダンプティ(千葉)	佐久クラブ(長野)	ヒマワリ(北海道)
	D	キャッツアイ(東京)	かつみクラブ(神奈川)	だんだん・島根(島根)
	E	Biscuit2(埼玉)	エンドレス(兵庫)	Marchin's(京都)
	F	HOPI T-REX(神奈川)	かしわクラブ(千葉)	フカガワQueen(長野)
シニア	G	柏木クラブM(宮城)	桐花クラブⅡ(群馬)	フライデーバニラ(愛知)
	H	WIN八戸(青森)	福島レディースシニア(福島)	グランマ上越(新潟)
	I	ZERO(大阪)	ハンプティ ダンプティS(千葉)	Dam's(福岡)

一般Aブロック

1 桜香クラブ (兵庫)	30	敗者戦	桜香クラブ
2 Cool de beauty (神奈川)	34	31	One☆bee
3 ブルーインズ・レッツ(埼玉)	30	35	
4 One☆bee (京都)	51	31	3位決定戦
5 JBC (千葉)	85	50	Cool de beauty
6 A&G'S (宮城)	26	48	JBC
7 ARASHI (大阪)	41	55	A&G'S
8 デレッターズママ (東京)	45	45	ARASHI

一般Bブロック

9 UPPERS (青森)	55	敗者戦	spice
10 spice (北海道)	38	54	BOSE
11 BOSE (茨城)	48	58	
12 多治見エルクラブ (岐阜)	25	26	3位決定戦
13 MMC (群馬)	52	51	MMC
14 ブロッサム (和歌山)	58	51	
15 清水西クラブ (静岡)	94	26	敗者戦
16 倉敷藤花 (岡山)	26	25	ブロッサム
	57	75	9
	35		79

一般Cブロック

17 ヒマワリ (北海道)	53	敗者戦	レッドバンサー
18 レッドバンサー (山梨)	33	27	FUN
19 佐久クラブ (長野)	33	46	
20 FUN (広島)	42	36	3位決定戦
21 砺波クラブmama (富山)	36	30	ヒマワリ
22 ハンプティ ダンプティ(千葉)	30	44	アカシヤOG
23 垂仁麻留 (大阪)	40	49	
24 アカシヤOG (北海道)	47	42	敗者戦
	77	45	砺波クラブmama
	54	42	垂仁麻留

一般Dブロック

25 サプライズ (三重)	32	敗者戦	サプライズ
26 キャッツアイ (東京)	53	31	びわこクラブ
27 びわこクラブ (滋賀)	58	40	
28 だんだん・島根 (島根)	36	23	3位決定戦
29 かつみクラブ (神奈川)	58	58	だんだん・島根
30 鹿花クラブ (秋田)	31	47	61
31 チェリーズ (山形)	53	34	60
32 Lazy Bones (茨城)	31	51	チェリーズ
	45	34	
	28	52	敗者戦
		61	鹿花クラブ
			Lazy Bones

一般Eブロック

33 Marchin's (京都)	37	敗者戦	F.M.B.C.
34 F.M.B.C. (千葉)	25	46	いちのせきマザーズ
35 いちのせきマザーズ (岩手)	32	37	
36 Biscuit2 (埼玉)	53	3位決定戦	
37 Flower (北海道)	24	42	Marchin's
38 蒲郡ママ (愛知)	53	28	Flower
39 エンドレス (兵庫)	43	45	敗者戦
40 Bee (石川)	28	21	蒲郡ママ
	16	47	Bee

一般Fブロック

41 新居クラブ (静岡)	27	敗者戦	新居クラブ
42 かしわクラブ (千葉)	57	63	G.peace
43 朝霞バインズ (埼玉)	52	24	
44 G.peace (大阪)	47	3位決定戦	
45 HOPI T-REX (神奈川)	48	22	朝霞バインズ
46 カントリーマム (愛知)	35	27	フカガワQueen
47 B★LIKE (京都)	66	36	
48 フカガワQueen (長野)	36	38	敗者戦
	35	43	カントリーマム
	34	37	B★LIKE

シニアGブロック

49 桐花クラブⅡ (群馬)	37	敗者戦	いーはとーぶ
50 いーはとーぶ (岩手)	20	38	Mosquitoes
51 Mosquitoes (石川)	38	31	
52 フライデーバニラ (愛知)	18	3位決定戦	
53 柏木クラブM (宮城)	38	17	フライデーバニラ
54 MARS (京都)	49	52	マロニエM・C
55 マロニエM・C (栃木)	30	22	
56 sperkler (広島)	56	40	敗者戦
	31	30	MARS
	37	33	sperkler

シニアHブロック

57 セラピス (北海道)	37	敗者戦	奈良グリーンシニア
58 奈良グリーンシニア (奈良)	11	16	MDT
59 MDT (東京)	19	72	
60 WIN八戸 (青森)	45	3位決定戦	
61 グランマ上越 (新潟)	27	52	セラピス
62 多賀リフレイン (茨城)	39	30	グランマ上越
63 JKP. B. C (静岡)	42	20	
64 福島レディースシニア (福島)	29	31	敗者戦
	31	41	多賀リフレイン
	32	28	JKP. B. C

シニアIブロック

65 フカガワQueen-X (長野)	60	敗者戦	OKAYAMA☆CHO
66 OKAYAMA☆CHO (岡山)	18	37	桜香コミックス
67 桜香コミックス (兵庫)	32	45	
68 ハンブティ ダンブティS (千葉)	39	3位決定戦	
69 Bloom (神奈川)	42	30	フカガワQueen-X
70 ZERO (大阪)	46	46	Dam's
71 Biscuit2 'S (埼玉)	51	57	
72 Dam's (福岡)	43	71	敗者戦
	26	33	Bloom
	44		Biscuit2 'S

プラザ こぼればなし

- ◇ J P B Lは7月30日開催の記者会見席上で、1部参入予定クラブとして12クラブを発表した。その中で、1部か2部かで検討されているクラブが15クラブあるので、1部参入が確定される8月29日には予定数を越える18クラブになってもよいかと思っているとの発言もあった。チーム数が増えればゲーム総数を増加させることができ、観客動員が予定数を越えれば十分な収益も得られる見通しが立つ。

しかしながら、各チームに戦力差があれば魅力のないゲームは避けられないし、そのようなゲームには観客動員が見込めないであろう。戦力のないチームでも、例えばシュート成功確率が非常に高いなど、タレント性のある魅力ある選手が活躍すれば、それはそれで観客動員が可能かもしれない。

拮抗するチーム同士の最高に魅せるバスケットボールゲームは、沖縄から北海道までの日本全土で、チームのフランチャイズを越えて、多くのファンに観戦してもらえらるだろうし、バスケットボールファンを新たに獲得する観客増員にも結びつく筈である。

従って、多数の1部チームを東西に分割する案は避け、少数精鋭の1部リーグであってほしい。F I B Aのヴァイス氏は14プラスマイナス2と言われたというが、初年度は最少数の12クラブから発足し、様子を見て次年度で追加することを提案したい。

今回1部に参入できないクラブでごたついているとの報道を見聞するが、面子にこだわらず、初年度は2部であっても実力を発揮し、1部に入れ替わることが将来に向けそのクラブを発展させることに繋がる。

- ◇ 本文における JAPAN 2024 TASKFORCE の国内トップリーグ統一問題の記事で、トップリーグはピラミッド形の1部・2部・3部を構成し、将来的には、現在の実業団連盟やクラブ連盟等は統合してアマチュアの総合社会人連盟を創設するという案が検討されるとある。これは一つの望ましい形態と思う。

しかし、自前の体育館を有するだけでなく活動費援助が得られる実業団チームと、会社からの援助がないか又は少ないチーム（クラブ連盟所属のチームも同様）とがありその格差は大きい。

このような状況となれば、クラブ連盟所属チームは全国大会出場を目指すという目標を失うこともあり得る。殆どのクラブ連盟のチームはメンバー個人が体育館利用料、大会参加費、その他活動のための交通費などでその費用負担が重荷となっている筈である。そのため、一般のアマチュアチームは都市を中心とする小地域での活動が主で、関東などの広域では年2回程度、全国に亘る規模では年1回程度、などの選手権大会、交歓会、親睦会が活動の主体となる。

これらの事情を勘案すると、アマチュアの総合社会人連盟創設には更に十分な検討が必要ではなかろうか。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp

染めるだけじゃない！ハーブの作用で嬉しい効果

野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを

植物原料100%から生まれた
自然派の白髪染め&トリートメント

化学の力に頼らず安心して白髪を染めることが出来る。
自然界には天然の色素を持つ植物が沢山存在します。
ヘナがその代表的な植物であり、天然の染色力を持っただけでなく、素晴らしいトリートメント効果をあわせ持ちます。頭皮と髪を傷めずに美しく艶やかに染められるのが大きな特徴です。

白髪染め + 潤い・ツヤ + ハリ・コシ



グリーンノートヘナ・ヘナスーパー

オレンジブラウン ...1500円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン ...1600円+税
スーパーブラウン（早染め） ...2200円+税

オーガニータ（エコサート認証ヘナ）

ビターオレンジ・ノンカラー ...1800円+税
サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン ...2300円+税
ノンカラー ...1600円+税

株式会社 グリーンノート ☎ 03-3366-9701 詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ <http://www.henna.co.jp>

横浜中華街

皇朝点心舗



世界チャンピオンの

肉まん



1個100円(税込)

※各種お土産取扱店

楽R天
YAHOO!
第1位

世界チャンピオンの肉まん
第2位



皇朝レストラン

ぐるなび
第1位 第2位

時間無制限!

食べ放題

120種以上 1,990円~(税込)
※点心飲茶



王朝 (担担麵)



中華街初、こだわり健康担々面! 特製ワカメ練り込み麺使用の担々麺をはじめ、
お料理 50 種以上、麵・ご飯 20 種以上、お酒 20 種以上をご用意!





For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

